令和元年度　研究紀要　第２２８号

調査課題研究

「特別の教科　道徳」全面実施に関するアンケート調査

～アンケート結果の報告と考察～

胆振教育研究所

巻頭言

調査課題研究に関する
研究紀要の発刊にあたって

胆振教育研究所長　土　井　嘉　啓
（登別市立若草小学校長）

胆振教育研究所では、各学校において有効に活用していただける資料を目指して、今日的な教育課題や管内の現状等についての調査を行い、研究紀要にまとめています。
平成２７年３月に「学習指導要領」の一部改訂があり、小中学校における従来の「道徳の時間」を「特別の教科　道徳」として位置付け、小学校では平成３０年度、中学校では令和元年度より全面実施となりました。

具体的な改善・充実策としては、いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善する（「個性の伸長」「相互理解・寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解・国際親善」「よりよく生きる喜び」などの項目を小学校に追加）、問題解決的な学習や体験的な学習、「考え、議論する道徳」などを取り入れ、指導方法を工夫するなどが盛り込まれました。

そこで、胆振教育研究所では、移行期間となる平成２７年度に、「道徳科への移行期間での取組」についてアンケート調査を行い、明らかになった課題について解決の方向性を示す形で研究紀要を発行しました。

さらに、今年度は、全面実施となった、「道徳科」への取組について各校の実態と現在の課題などを調査いたしました。前回の調査と比較しながら、改善されてきた取組といまだ課題となっている取組について明らかにして、その結果を本年度の研究に生かして各学校へ研究のまとめとして還元することとしました。

本調査研究では、胆振管内における小中学校の「道徳教育の教育課程」「道徳科の教材」「道徳科の評価」等についてアンケート調査いたしましたので、今後の各校での教育課程や授業改善にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査研究にかかわり、アンケートのご協力をいただきました胆振管内の各小中学校をはじめ、貴重なご意見等をお寄せいただきました関係機関の皆様に対し心からお礼を申し上げ、研究紀要発刊にあたってのご挨拶といたします。

もくじ

○巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・胆振教育研究所長　　土　井　嘉　啓

○本調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

○「特別の教科　道徳」全面実施に関するアンケート調査結果・・・・・・・・・　2
　Ⅰ　道徳教育の推進に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　Ⅱ　教科書・教材の取扱いに関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
　Ⅲ　「特別の教科　道徳」の評価に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
　Ⅳ　道徳教育の成果や課題等に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

○本調査を通して見えてきたこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

令和元年度　所員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８

本調査の概要

■調査の趣旨及び目的

平成２７年７月に「学習指導要領」の一部改訂があり、小中学校における従来の「道徳の時間」を「特別の教科　道徳」（以下、「道徳科」という。）として位置付け、小学校で平成３０年度、中学校では平成３１年度から全面実施となりました。本研究所では平成２７年度に、「道徳科」への移行期間での取組について各校の実態と現在の課題などを調査し、その結果を研究紀要（第２１６号）にまとめました。今回は、平成２７年度の調査を踏まえ、全面実施となった今年度までの取組を調査し、各学校へ研究のまとめとして還元することを目的としています。今回の調査では、「道徳教育の推進」「教科書・教材の取り扱い」「道徳科の評価」「道徳教育の成果や課題」の４点でお聞きしました。

■回答者

胆振管内（苫小牧市、室蘭市を除く）の小・中学校の道徳教育推進教師の先生にお聞きしました。

なお、回答数については、小学校３８校、中学校１９校よりご回答いただきました。

■回答方法

回答は、選択肢から当てはまるものを選んでいただきました。

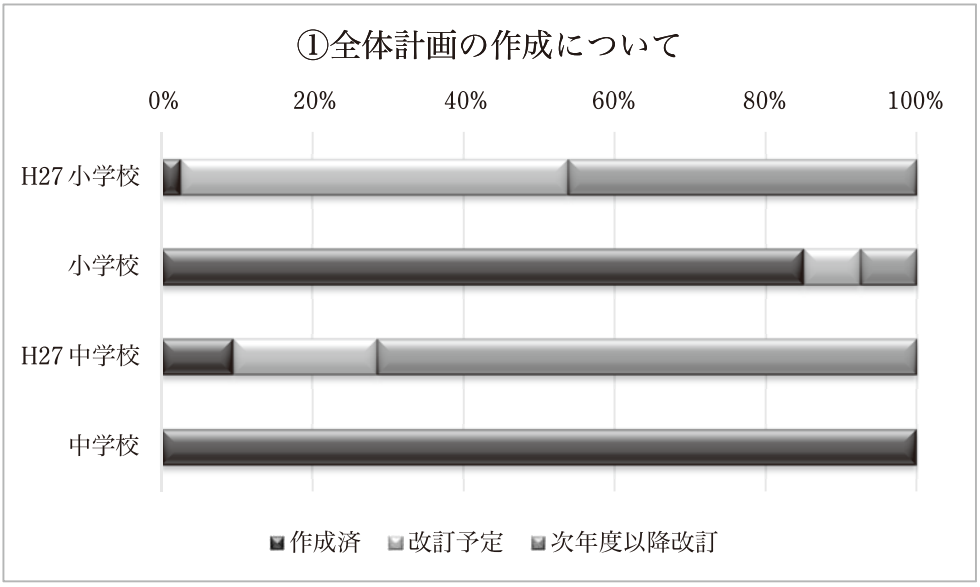
記述式で回答いただいたものについては、若干の校正をした後、掲載させていただいております。

「特別の教科　道徳」全面実施に関するアンケート調査結果

Ⅰ　道徳教育の推進に関すること

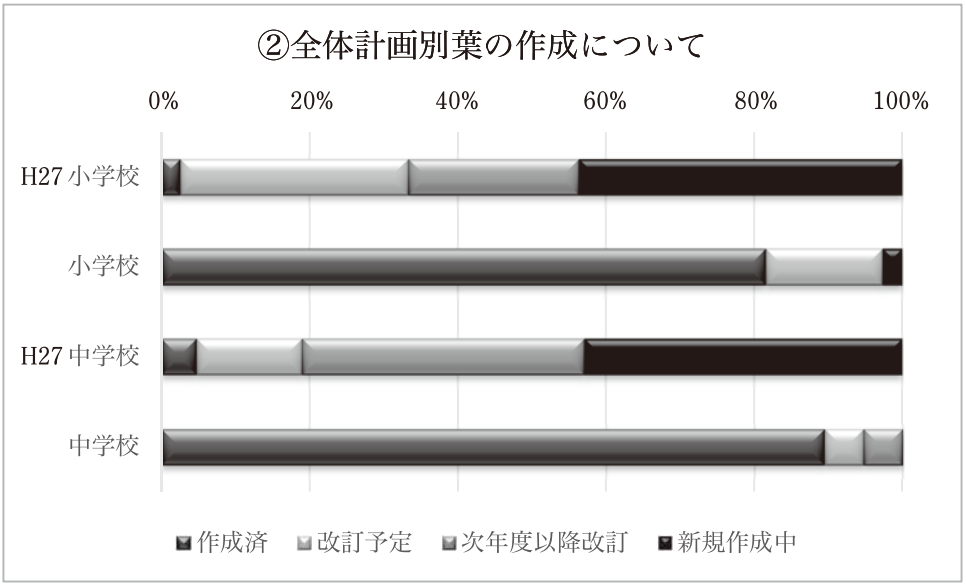
①　道徳教育の全体計画の作成について、自校の今年度の作成状況を選んでください。

1　「道徳科」への移行に合わせて作成済である。
2　「道徳科」への移行に合わせて改訂する予定である。
3　これまでに作成した全体計画を活用している。



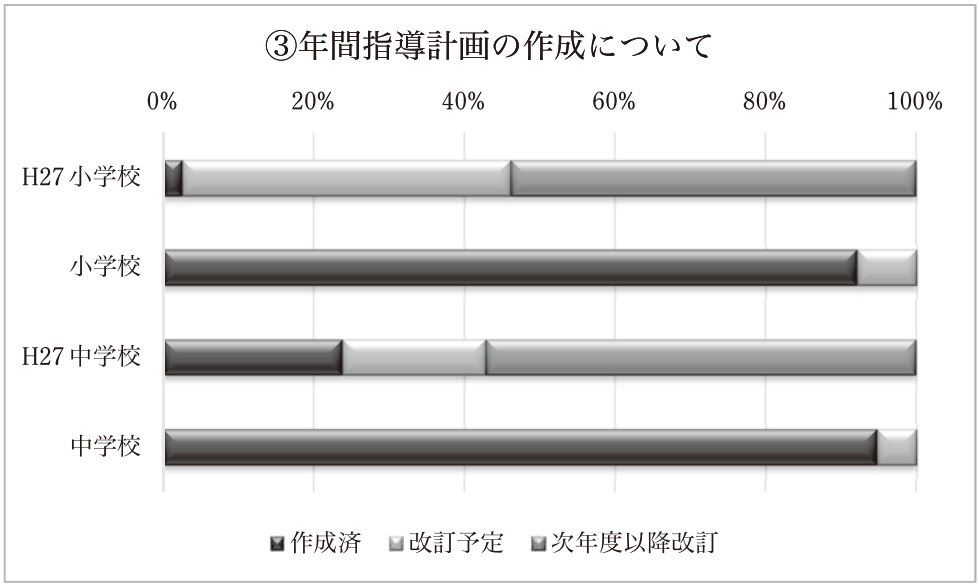
②　道徳教育の全体計画別葉の作成について、自校の今年度の作成状況を選んでください。

1　「道徳科」への移行に合わせて作成済である。
2　「道徳科」への移行に合わせて改訂する予定である。
3　これまでに作成した全体計画別葉を活用している。
4　全体計画別葉を作成中である。



③ 「道徳科」の年間指導計画の作成について、自校の今年度の作成状況を選んでください。

1　「道徳科」への移行に合わせて作成済である。
2　「道徳科」への移行に合わせて改訂する予定である。
3　これまでに作成した年間指導計画を活用している。



道徳教育に関する教育課程の整備については、平成２７年度に比べ「作成済」の学校が多くなっています。

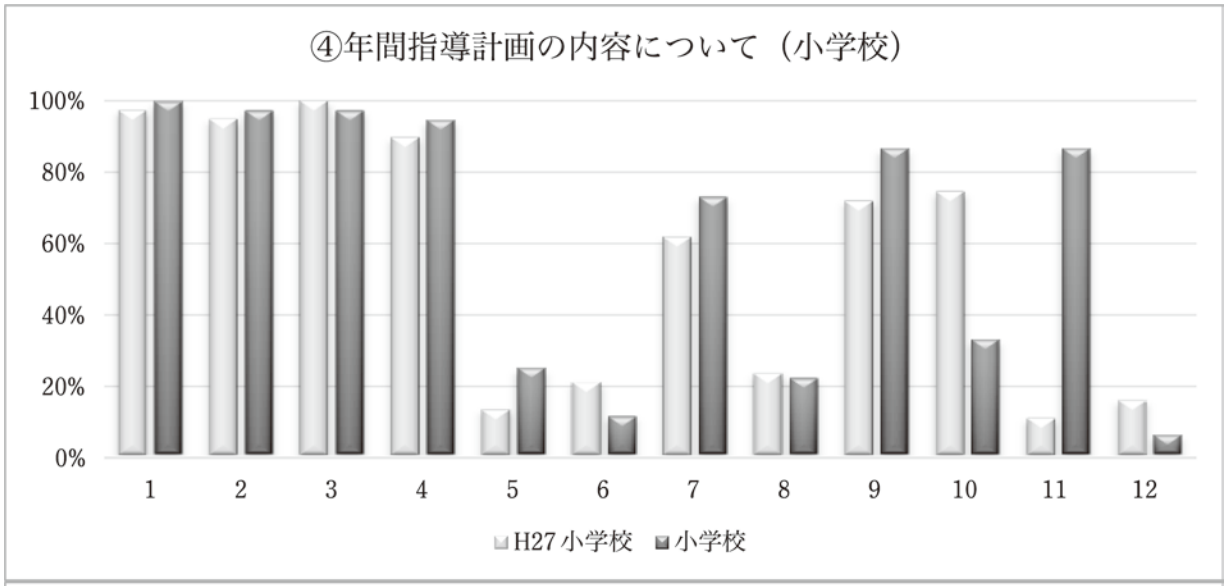
全体計画については、小学校でほとんど、中学校ではすべての学校で「作成済」と回答しており、「道徳科」への全面実施に向けて整備されてきたことがうかがえます。

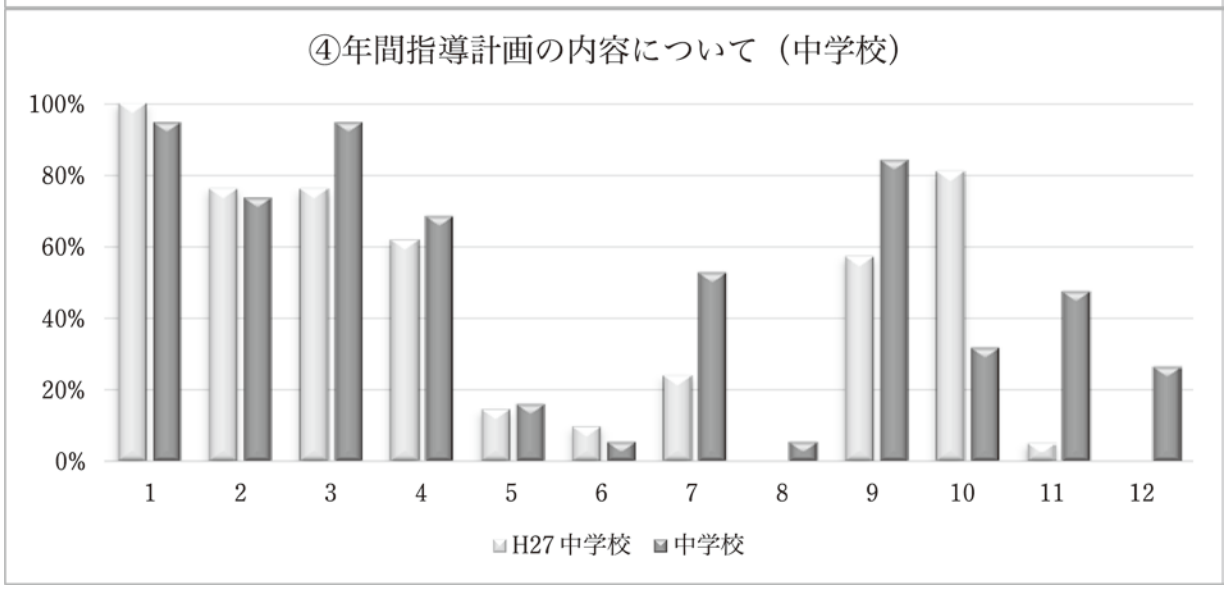
別葉については、「作成済」という回答が８割以上あり、「道徳科」への移行に合わせて作成されてきた傾向が見られます。

年間指導計画では、９割以上の学校が「作成済」と回答しており、「道徳科」への全面実施に向けて整備されてきたことがうかがえます。

④　今年度使用している年間指導計画の内容について、表記しているものすべてを選んでください。

１	内容項目	５	期待する姿	９	他の教育活動との関連
２	主題名	６	主題構成の理由	１０	「現代的な課題」との関連
３	教材名	７	展開の大要	１１	評価
４	ねらい	８	指導方法	１２	その他（　　）





（注）１０の回答は平成２７年度、「わたしたちの道徳」との関連をお聞きしています。

＜その他の内容＞

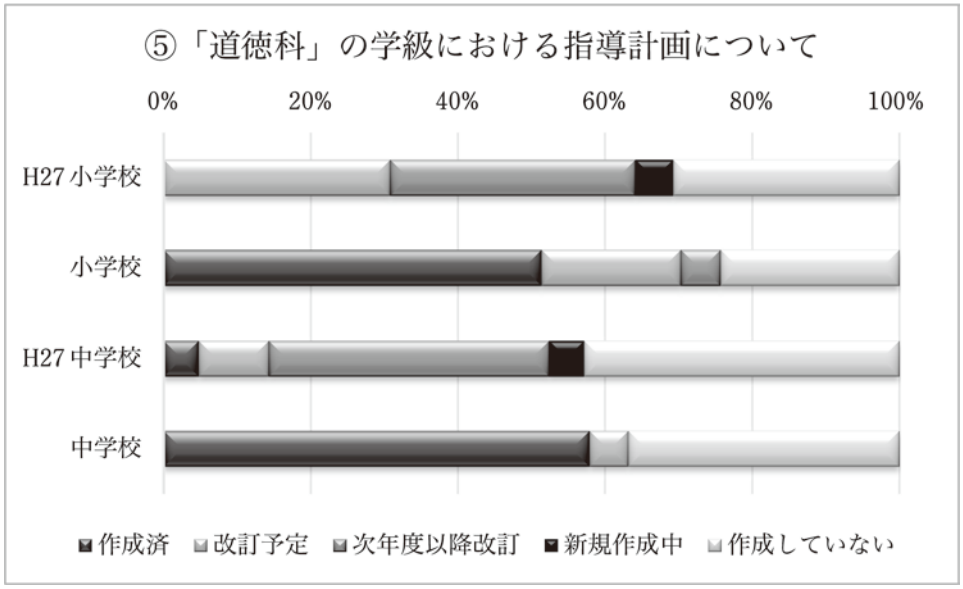
【小学校】
・めあて、学習活動・選択資料・指導要領見出し・指導の要点。
・ねらいの達成度、感想、印象的な発言などのメモ。
・学年の基本方針、重点指導項目。

【中学校】
・行事、該当学年・学年の方針・各学年の重点項目・めあて・実施時期。

「内容項目」「主題名」「教材名」「ねらい」などの項目は高い割合となり、基本的な事項として記載されている傾向が見られます。
「評価」について小学校・中学校ともに記載が大きく増えたことがうかがえます。

⑤ 「道徳科」の学級における指導計画について、自校の今年度の作成状況を選んでください。

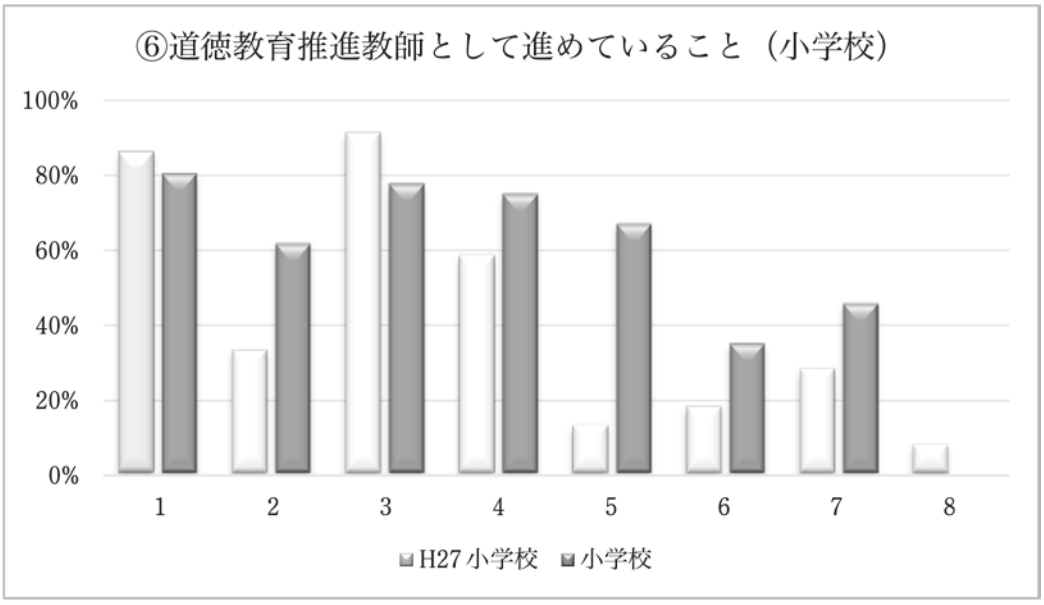
1 「道徳科」への移行に合わせて作成済である。
2 「道徳科」への移行に合わせて改訂する予定である。
3 これまでに作成した学級における指導計画を活用している。
4 学級における年間指導計画は作成中である。
5 学級における年間指導計画は作成していない。

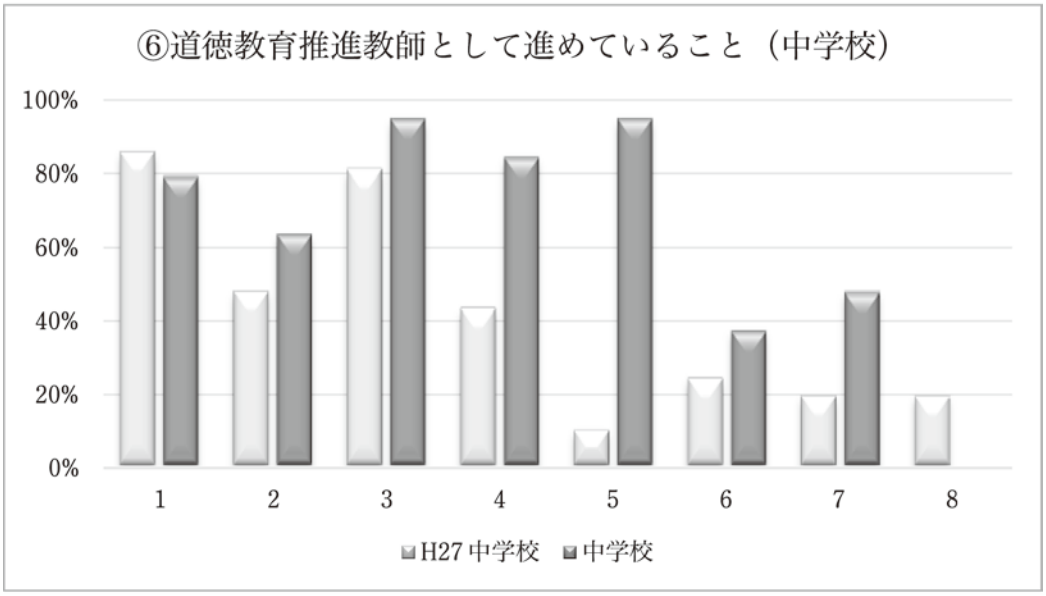


「学級における指導計画」については、平成２７年度に比べて「作成済」の学校が５割以上と大幅に増えたことがうかがえます。

⑥　**自校において道徳教育推進教師として進めていることをすべて選んでください。**

1　道徳教育の指導計画の作成に関わっている。
2　「道徳科」の授業を行うなど指導体制に関わっている。
3　道徳教育の情報提供や情報交換をしている。
4　道徳教育の研修の充実に努めている。
5　道徳教育における評価に関して研修を進めている。
6　各学級の「道徳科」の授業を参観している。
7　各学級で「道徳科」の授業を行って、参観してもらっている。
8　その他（　　）

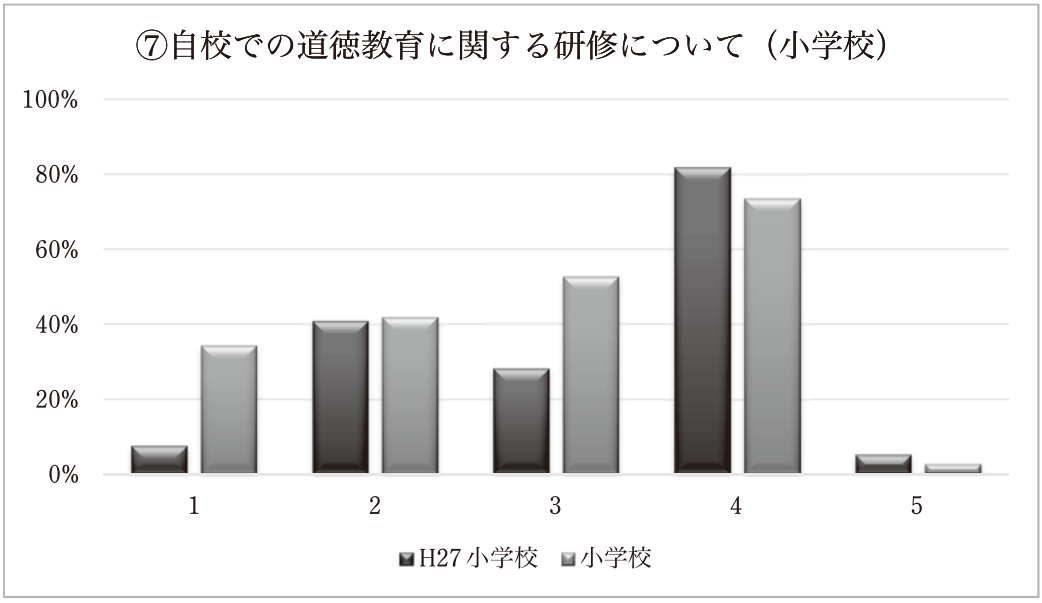


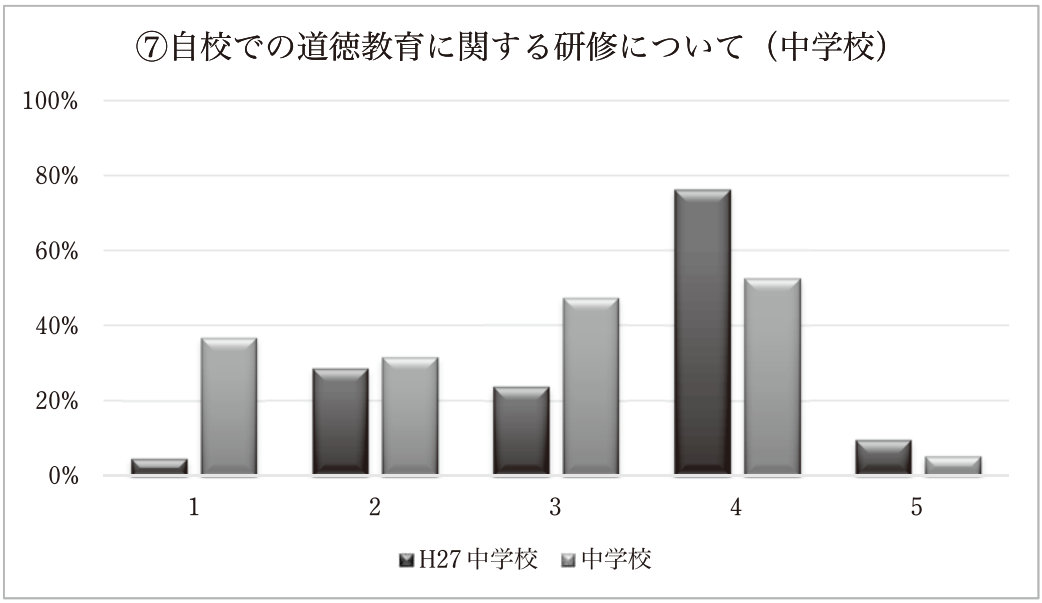


「指導計画の作成」「情報提供、情報交換」などの項目が多い傾向が見られます。「授業を行う」「授業を行って参観してもらう」や「評価」について、大幅に増えたことがうかがえます。

⑦　**自校での道徳教育に関する研修について、当てはまるものをすべて選んでください。**

1　道徳教育を主な研究領域として、研修を進めている。
2　主な研究領域とは別に校内研修として、取り扱っている。
3　学年やブロックなどで「道徳科」の授業交流を行っている。
4　道徳教育に関する資料を回覧している。
5　その他（　　）





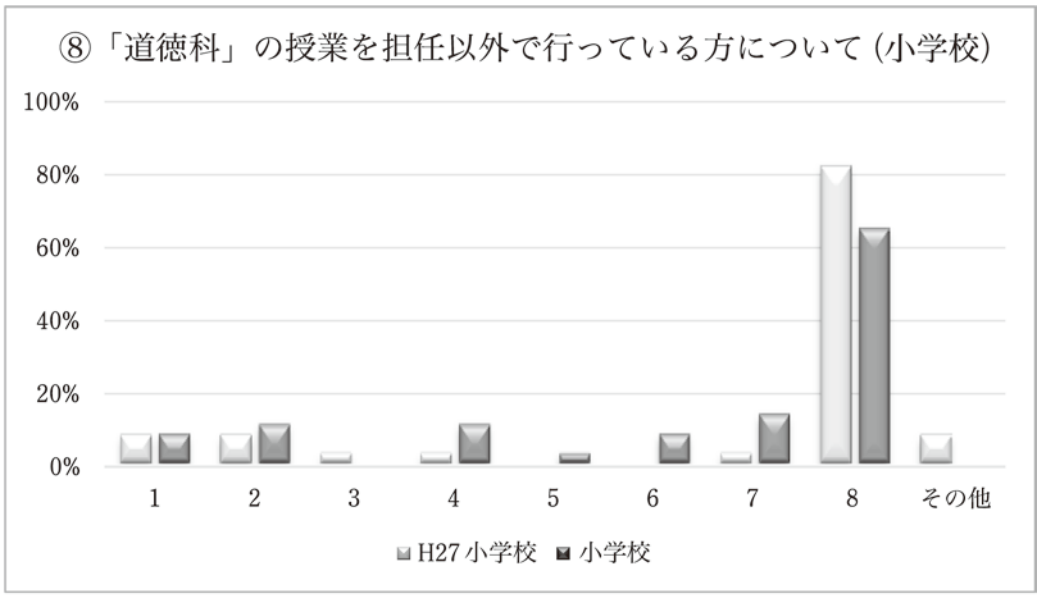
＜その他の内容＞

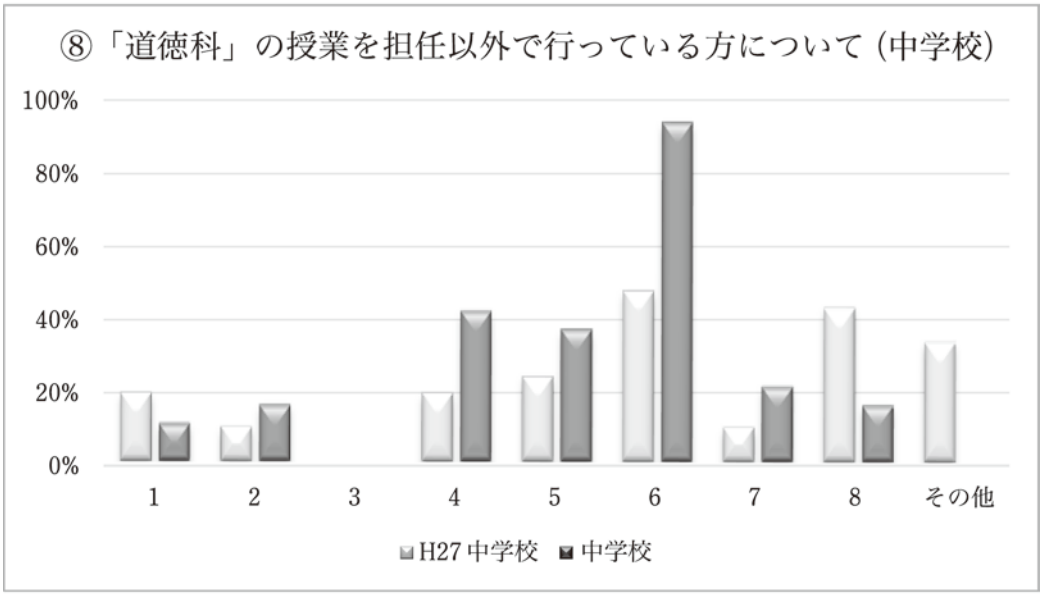
【小学校】
・研究領域に道徳教育を含めて研修を進めている。
【中学校】
・可能な範囲で公開研究会などに参加するようにしている。

平成２７年度では「資料の回覧」が比較的多く、そのほかの研修は低い傾向にありましたが、今年度は「資料の回覧」が少なくなり、「主な研究領域として、研修」「授業交流」などの項目が増えてきたことがうかがえます。

⑧　自校で「道徳科」の授業を担任以外で行っている方をすべて選んでください。

1　校長　　6　学級副担任
2　教頭　　7　道徳教育推進教師として、いくつかの学級で行っている。
3　主幹教諭　　8　すべて学級担任が行っている。
4　教務主任　　9　その他（　　）
5　学年主任





＜その他の内容＞

【小学校】
・担任外の教員、養護教諭
・教務フリー
【中学校】
・外部講師。
・ローテーションでの実施
・当該学年に所属する特別支援学級の担任

小学校では学級担任が進めることが多く、学習指導要領に示される担任以外の先生が授業を行う機会は少ない傾向が見られます。
中学校では担任以外の先生も道徳の授業に関わっている場合が増えてきたことがうかがえます。

⑨ 「道徳教育の推進」という視点で、上記以外に各校で工夫している取組（具体例）があればお書きください。（自由記述）

【小学校】
・年１回道徳に関わる研修、外部講師事業の活用。
・地域の教育資源（物的、人的）の活用。
・参観日において、各学級が年１回は道徳科の授業を公開することにしている。
・各クラスの授業後の板書を写真にして記録し交流している。
・２学期の参観日には全学年が道徳科の授業公開をしている。
・授業を進めるメイン教師以外の教師が複数（２名）入り、他者理解の場面等で議論に参加し、新たな視点を与えたり、生徒が考えを深める刺激となる授業の研究。道徳で使用する小道具の作成。授業づくりの過程を共有する場の提供。学年団で授業をバランスよくまわるようにしており、授業づくりの相談をしやすくし、生徒の様子を多様な視点で観察している。
・考え、議論する道徳の授業をすすめるため、全校道徳を年間３回実施し、児童が議論する場を設定している。
・道徳掲示板があり、授業の様子、ワークシートの交流を行っている。
・板書交流、道徳ノート（ファイル）の活用、ワークシート･掲示資料のファイル化、評価の仕方など研修を行う。
・全学級の授業公開、町内小中学校への参観案内発送、重点項目の設定。
・授業参観日に、全校で一斉に道徳科の授業を行っている。
・道徳科は主たる研究教科ではないが、研修日程をやり繰りして研修の機会を設定

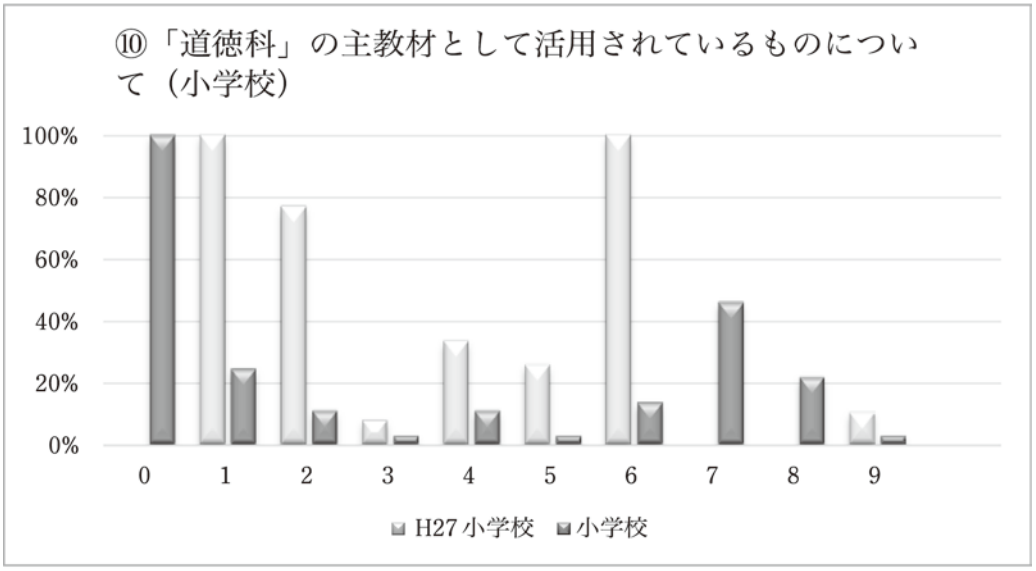
し、授業を公開し合い協議を行っている。
・本校の児童の実態を踏まえ、重点内容項目を設定し、該当する教材については教材研究に力を入れている。地域の方に授業を参観していただく日に道徳科の授業を行うことで、道徳科の授業について知ってもらう機会を設けている。
・授業参観の際に、参観者が評価に参加し、複数の人で評価している。
・道徳アンケートを実施し、児童の実態や変容を把握している。重点的に指導をする内容項目を設定し、教職員で共通理解を図っている。

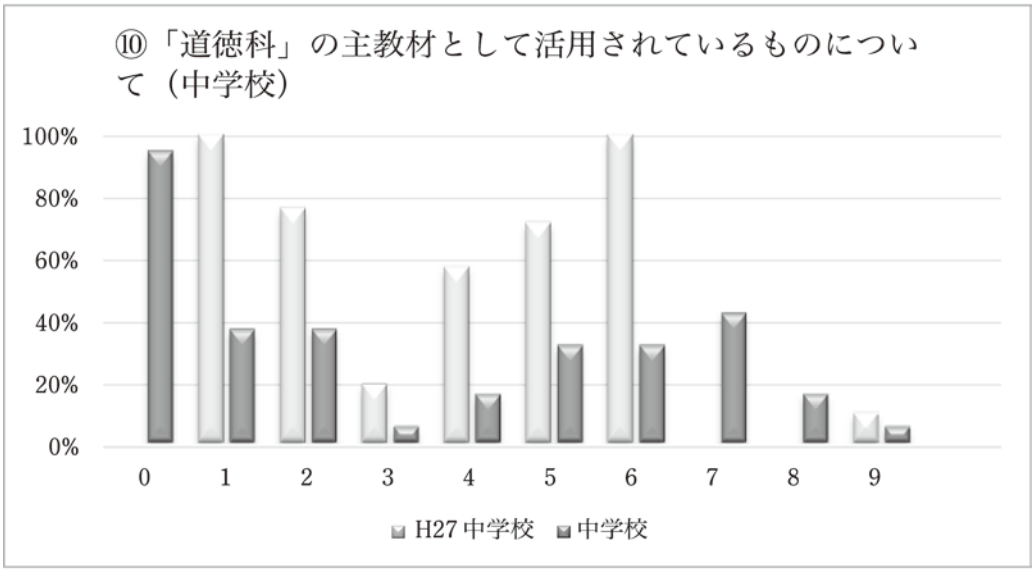
【中学校】
・管理職を除く担任と副担任で、学年問わず授業を行っている。
・研修だよりの発行、教員全員が道徳の授業公開を行う。アセス、ほっとの活用外部講師による授業。
・授業交流日を月２で設定。授業をみとるシートを活用して、ポイントを絞った話し合いにつなげている。
・ワークシート（統一した）の工夫。評価カードの工夫。
・道徳通信の発行。
・ワークシートのファイル化とワークシートを基本とした評価に関する具体例の提示。通知表の道徳科における評価記述欄の整備。
・ＩＣＴの活用・テレビ番組等の活用。
・道徳意識調査 (生徒、教師) を年度始、年度末に行っている。

Ⅱ　教科書・教材の取扱いに関すること

⑩　自校の「道徳科」の主教材として活用されているものをすべて選んでください。

0　検定教科書
1　読み物資料
2　テレビ・DVD などの情報メディア
3　作文
4　新聞・雑誌
5　自作教材
6　「私たちの道徳」
7　北海道版道徳教材「きた　ものがたり」
8　北海道版道徳教材「はあと・ふる」
9　その他（　　）





＜その他の内容＞

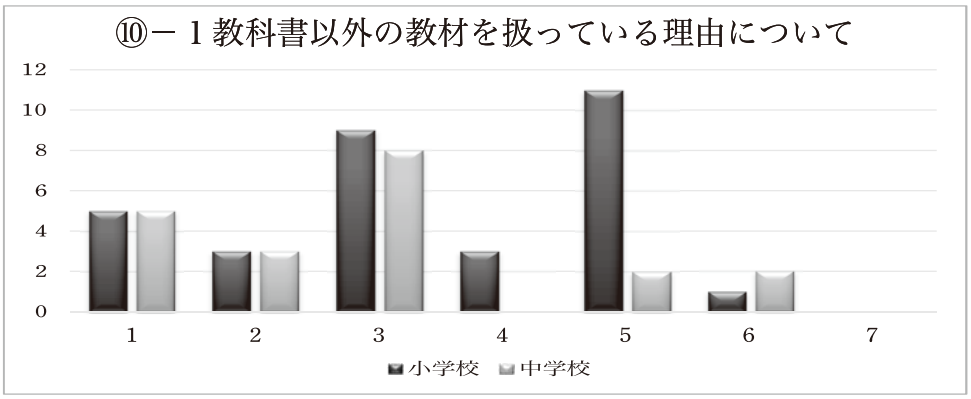
【小学校】
・外部講師による講話、映像視聴
・セカンドステップ

【中学校】
・人権教育に関わり外部講師による講話

ほとんどの学校で「検定教科書」が活用されています。また、「きた　ものがたり」を活用する学校が増えてきたことがうかがえます。中学校では「新聞・雑誌」「自作資料」の活用が小学校に比べて高いなど、幅広い教材で進められていることがうかがえます。

⑩－1　0 番以外を選択した学校にお聞きします。教科書以外の教材を扱っている理由として当てはまるものをすべて選んでください。

1　これまで活用してきた読み物資料の教材が、学習に効果的だから。
2　指導の重点項目に合わせて、授業時間を増やしたいから。
3　自校の児童生徒の実態にあった教材があったから。
4　教科書の教材で、児童生徒の実態に合わないものがあったから。
5　地域素材を活用した道徳教材が必要だから。
6　外部人材の講話を主とした道徳科の時間を設定しているから。
7　その他（　　）



＜その他の内容＞

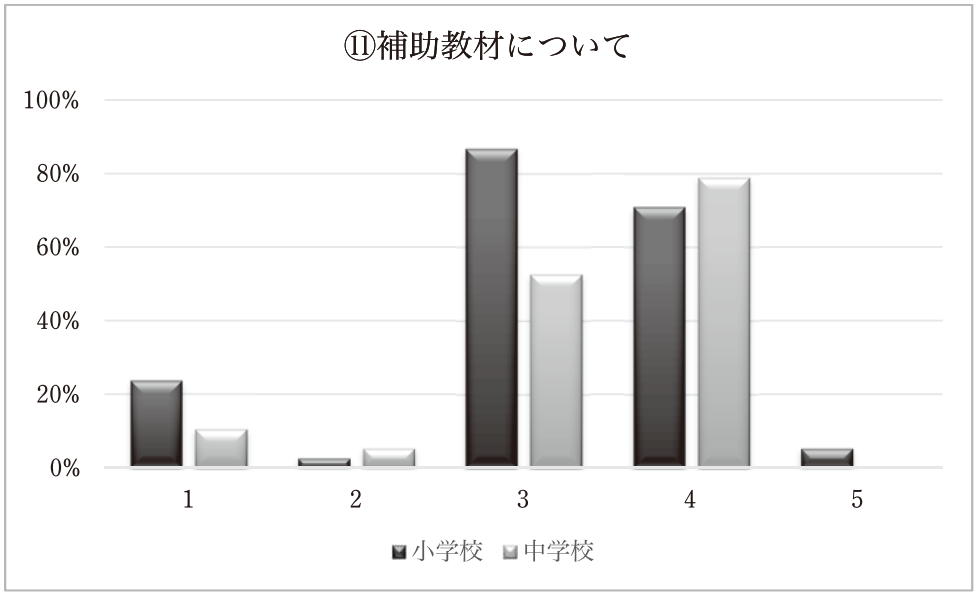
【小学校】
・教科書付属ＤＶＤの活用が、学習に効果的だから。

「これまで活用してきた読み物資料の教材が、学習に効果的」「自校の児童生徒の実態にあった教材」などの理由で、検定教科書以外の教材が活用されていることがうかがえます。また、小学校では「地域素材を活用した道徳教材」が活用されていることがうかがえます。

⑪　自校の「道徳科」の授業で教科書以外に補助教材として活用しているものをすべて選んでください。

1　道徳ノート（市販のノート）
2　道徳ノート（学校用教材のノート）
3　ワークシート（教科書付録）

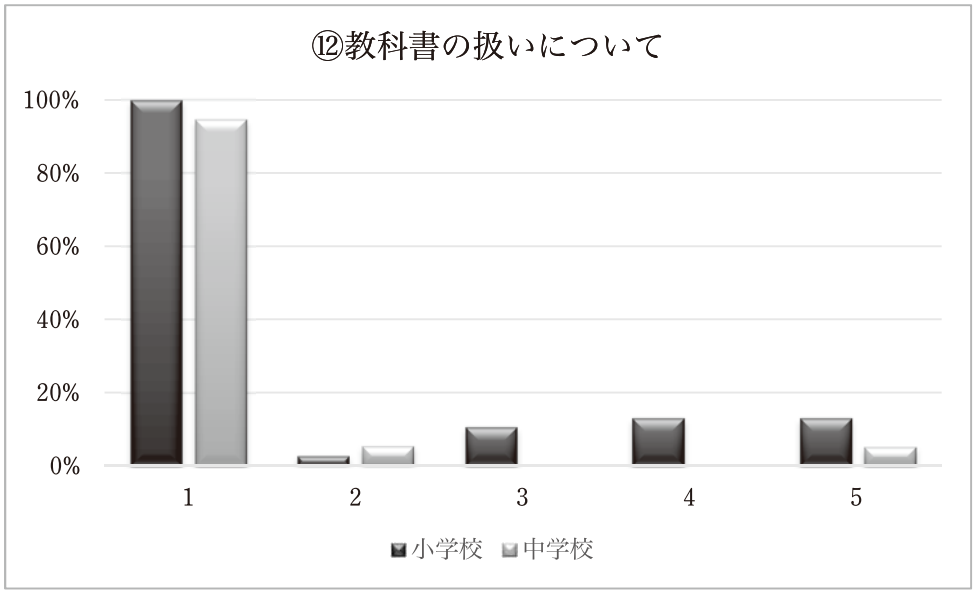
4　ワークシート（自作）
5　主教材（教科書）のみで行っている。



「ワークシート（教科書付録）」「ワークシート（自作）」などの補助教材が多く使われている傾向にあります。

⑫　教科書の扱いについて、当てはまるものをすべて選んでください。

1　道徳科の授業で扱っている。
2　各教科等の学習、朝・帰りの会など、日常の学校生活で活用している。
3　家庭や地域で話し合ったことを書き込むようにしている。
4　保護者が書き込んだり、家庭で話し合ったりするようにしている。
5　学校として、特に活用の仕方を定めていない。

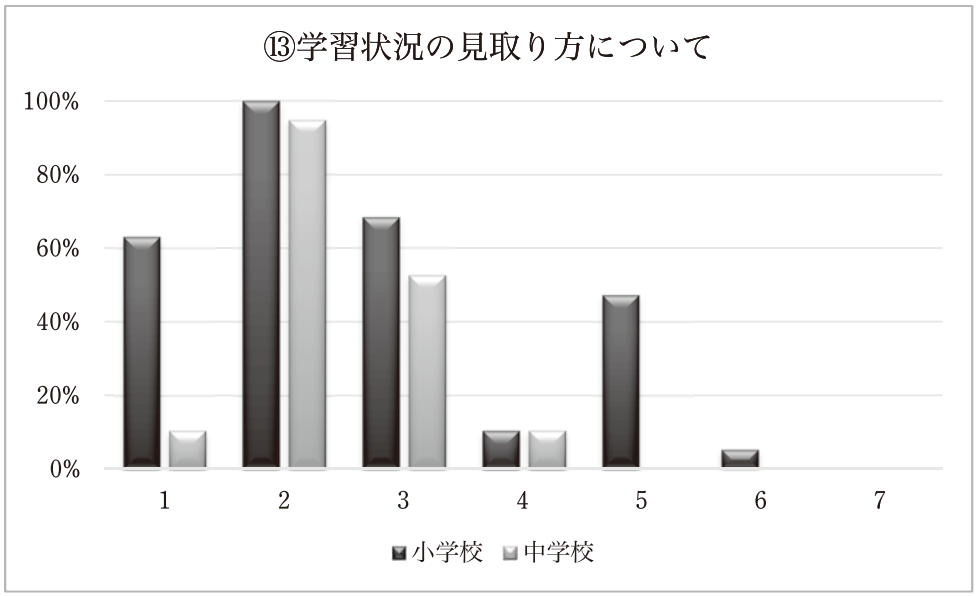


「道徳科の授業で扱っている」と回答した学校が多い傾向にあります。

Ⅲ　「特別の教科　道徳」の評価に関すること

⑬　道徳科の授業での日常的な児童生徒の学習状況の見取り方として、当てはまるものをすべて選んでください。

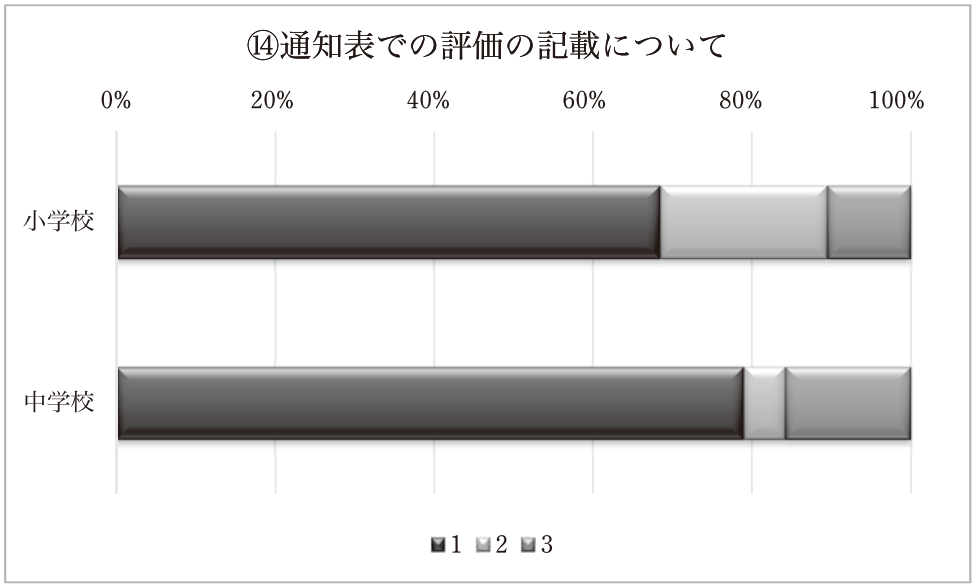
1　教科書の書き込み部分に書き込ませて評価している。
2　補助教材（道徳ノート、ワークシート）などに書き込ませて評価している。
3　毎時間の見取りをメモ（デジタルメモを含む）して蓄積して評価している。
4　ティーム・ティーチングの協力者などと評価している。
5　板書された児童生徒の考えを撮影して評価している。
6　授業を録音、録画して振り返りながら評価している。
7　その他（　　）



「補助教材（道徳ノート、ワークシート）などに書き込ませて」「毎時間の見取りをメモ（デジタルメモを含む）して蓄積して」と回答した学校が多い傾向にあります。

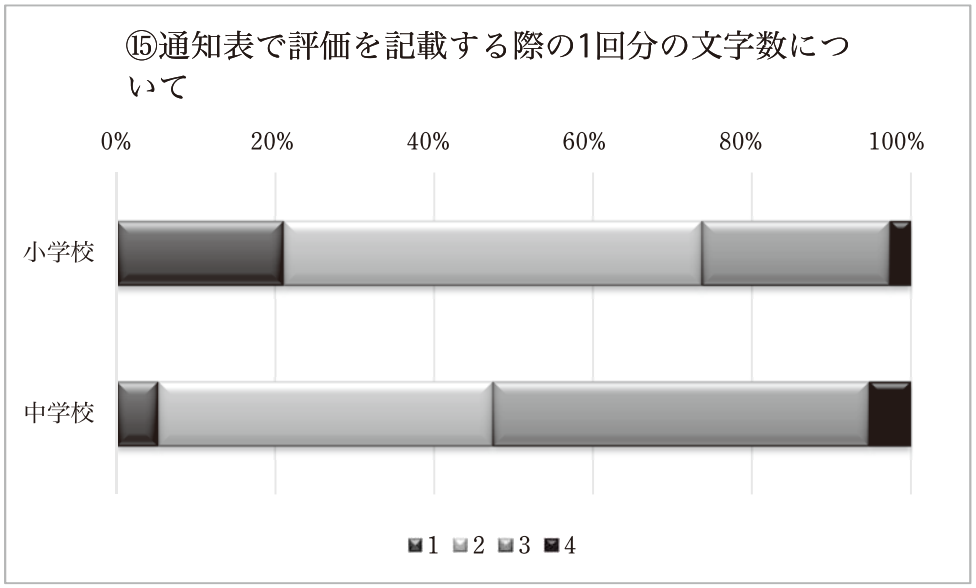
⑭　通知表での評価の記載について、当てはまるものを選んでください。

1　年間で１回
2　年間で２回
3　年間で３回



⑮　通知表で評価を記載する際の１回分の文字数について、当てはまるものを選んでください。

１　４０字～８０字
２　８０字～１２０字
３　１２０字～１６０字
４　１６０字以上

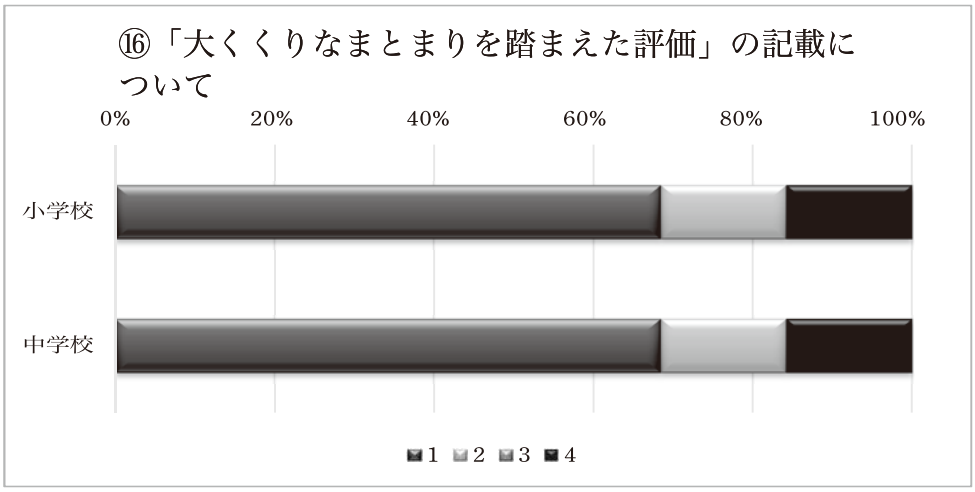


通知表の評価は、「年間で１回」「８０字～１２０字」程度の学校が多い傾向にあります。

⑯　通知表での評価でいわゆる「大くくりな評価」の記載について、当てはまるものを選んでください。

１　評価の記載では、必ず「大くくりなまとまりを踏まえた評価」で行っている。
２　評価の記載では、年１回は「大くくりなまとまりを踏まえた評価」で行っている。
３　評価の記載では、「大くくりなまとまりを踏まえた評価」を行っていない。

4　評価の記載では、「大くくりなまとまりを踏まえた評価」について学校として統一した書き方は決めていない。



すべての学校で、「大くくりなまとまりを踏まえた評価」が行われていることがうかがえます。

⑰　通知表での評価の書き方について、学校で統一した取組（具体例）がありましたら、ご記入ください。（自由記述）

【小学校】

・内容項目が分かるように記述する。（昨年度の道徳の研修で説明）。道徳所見文作成システムの導入。
・学習状況の様子と成長の様子を組み合わせて記述する。
・各教材、各時間での児童の変容について扱う。
・横断的、または縦断的視点での評価の推進。
・（内容項目）について考える学習では、・・・・・・。
・評価の視点を設定し、具体的な学びの姿を記述するようにしている。
・文例は出さないが、道徳科の目標に正対した文章となるよう確認済み。
・学級経営委員会で研修を行い、基本の記入事項の確認（表記の仕方）、文言について学校全体で統一している。
・評価の仕方や評価言等について研修を行った。
・道徳の学習状況とともに、1 単位時間の学習で児童の発言・記述等において顕著な姿とそれに関わる考えや思いを記載する。
・児童が道徳的価値を理解し、自分自身との関わりの中で深め、いかに成長したかという点を積極的に受け止めて励ます、記述式の個人内評価で行う。個々の内容項目ではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とする。1 時間 1 時間の授業を通しての変容を見取るのは難しいので、一定のまとまりの中で見取っていく。
・参考となる評価文の書き方についての資料を配付して活用している。
・評価の例を全体で確認し、語尾などの表現の統一をした。

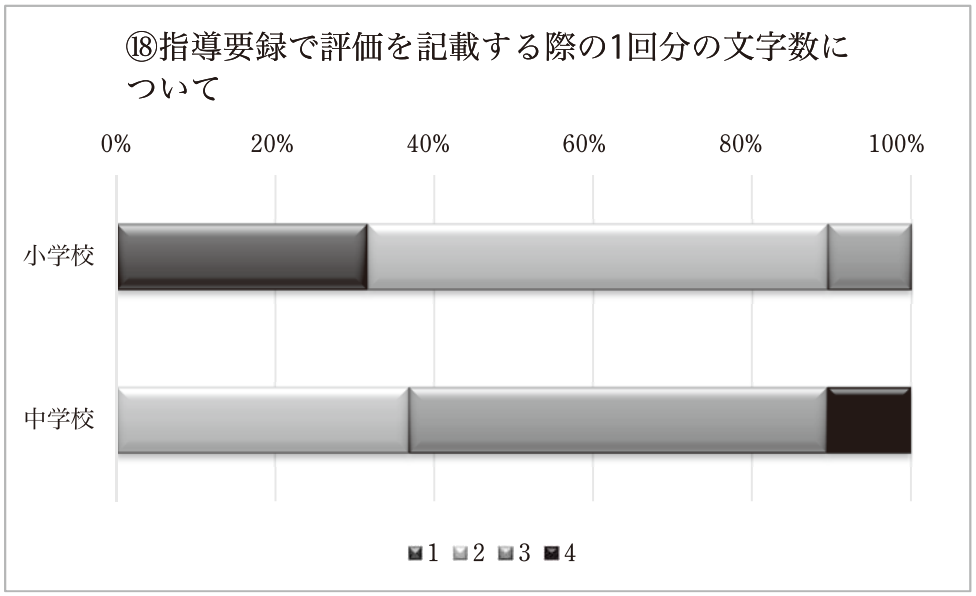
・内容項目、学習内容、具体、評価の４項目を記載するようにしている。
・年度末には、児童の変容を伝えるようにする。

【中学校】

・道徳の授業の中で「どのような学習の姿が見られ」、それにより「どのような変容が見られたか」という文章構成を基本とし、一人一人について記述する。
・前半・・・学習状況の様子　後半・・・成長の様子。
・視点、内容項目、教材ごとに生徒の評価を記入できるシートを作成している。また、「つなぐ」「生かす」などの言葉で道徳全体における学びや気付きから評価できるようにしている。
・ポートフォリオした内容から、どのような評価文にするかの文例を複数提示している。
・保護者向けの文章とし、文字数の上限と下限を設定する。生徒自らが成長を実感できる内容とする。
・毎時間の見取りだけでなく、学期毎の振り返りシートを活用している。
・ダメな文例の資料を渡して共通理解を図っている。
・具体的な単元での姿を加えながら、学期毎の個々の変容を広く見取る。
・一般的な「型」を決める予定でいる。

⑱　指導要録で評価を記載する際の 1 回分の文字数について、当てはまるものを選んでください。

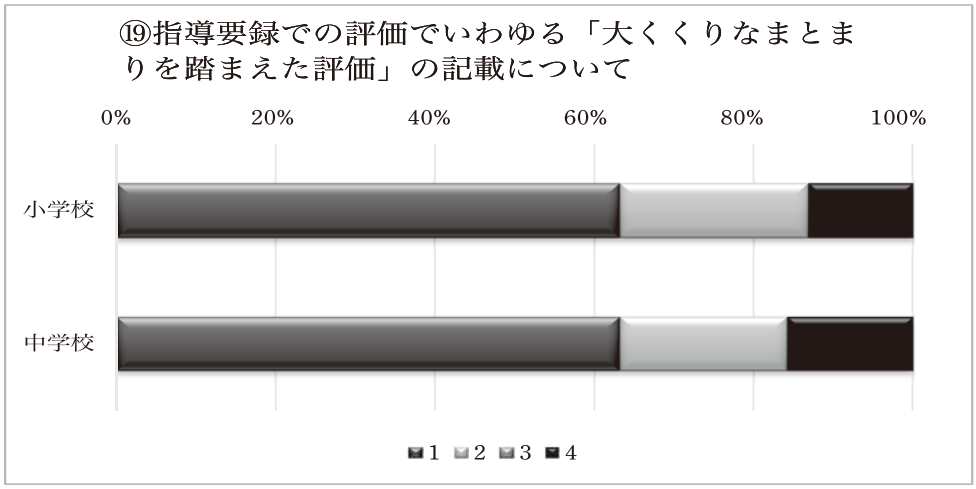
１　４０字～８０字
２　８０字～１２０字
３　１２０字～１６０字
４　１６０字以上



指導要録の評価は、小学校で「８０字～１２０字」中学校で「１２０字～１６０字」程度の学校が多い傾向にあります。

⑲　指導要録での評価でいわゆる「大くくりなまとまりを踏まえた評価」の記載について、当てはまるものを選んでください。

1　評価の記載では、必ず「大くくりなまとまりを踏まえた評価」で行っている。
2　評価の記載では、できるだけ「大くくりなまとまりを踏まえた評価」で行うようにしている。
3　評価の記載では、「大くくりなまとまりを踏まえた評価」を行っていない。
4　評価の記載では、「大くくりなまとまりを踏まえた評価」について学校として統一した書き方は決めていない。



すべての学校で、「大くくりなまとまりを踏まえた評価」が行われていることがうかがえます。

⑳　指導要録での評価の書き方について、学校で統一した取組（具体例）がありましたら、ご記入ください。（自由記述）

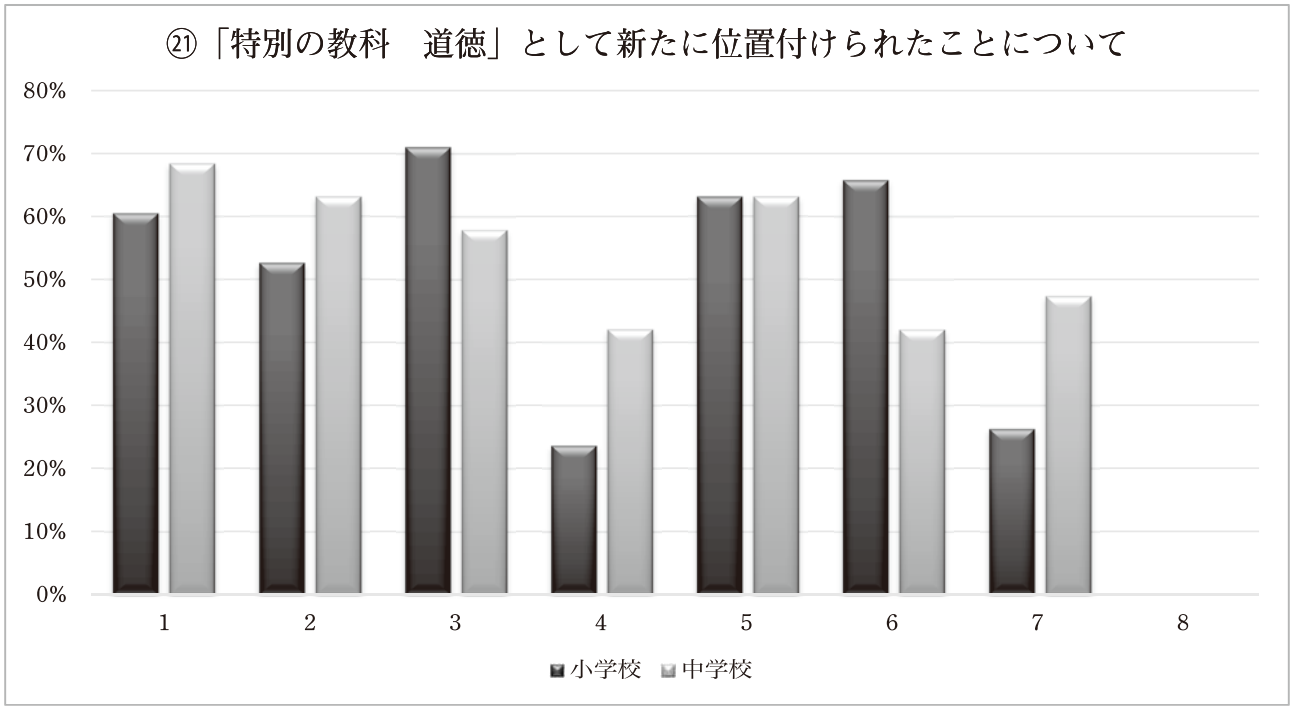
【小学校】
・書き出しは、通知表所見同様、内容項目が分かるように記述。
・通知表に準じる。（６校）
・道徳の学習状況とともに、１ 単位時間の学習で児童の発言・記述等において顕著な姿とそれに関わる考えや思いを記載する。
・参考となる評価文の書き方についての資料を配付して活用する予定である。
・大くくりなまとまりを意識し、具体の詳細は含めない。

【中学校】
・通知表に準じる。（３校）
・⑰と同様。（2 校）
・視点、内容項目、教材ごとに生徒の評価を記入できるシートを作成している。また、「つなぐ」「生かす」などの言葉で道徳全体における学びや気づきから評価できるようにしている。
・三学期の総括した評価を指導要録に記載する。
・通知表の評価を流用できるようにする予定でいる。

Ⅳ　道徳教育の成果や課題等に関すること

㉑　「道徳の時間」が教育課程上「特別の教科　道徳」として新たに位置付けられたことによって、成果として当てはまるものをすべて選んでください。

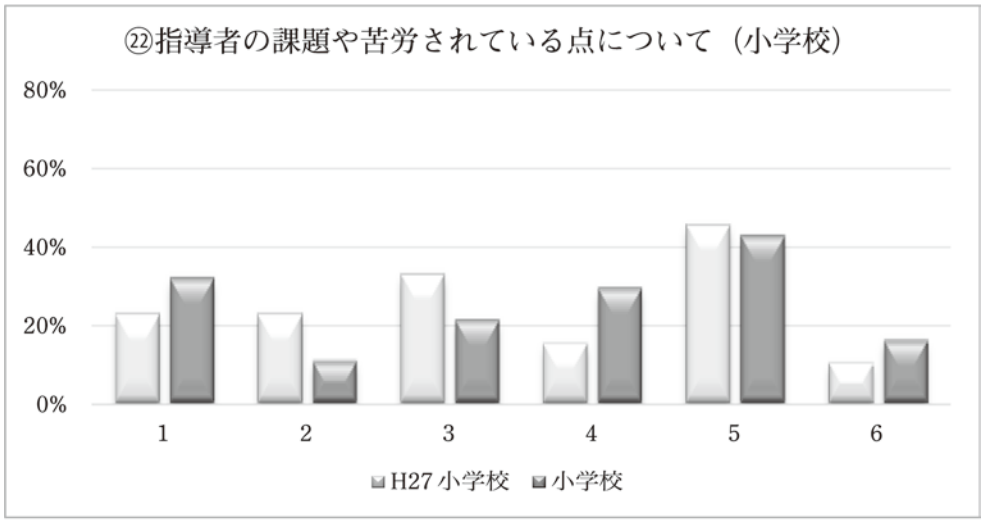
1　道徳教育の目標が明確で理解しやすいものとなり、指導しやすくなった。
2　各学年の指導が発達段階を踏まえた体系的なものになった。
3　検定教科書が導入され、授業が進めやすくなった。
4　児童生徒一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価ができるようになった。
5　教育課程での位置付けが明確になり忌避しがちな風潮がなくなってきた。
6　他教科と比べて軽んじられることなく進められるようになった。
7　読み物教材の登場人物の心情理解に偏った形式的な指導がなくなってきた。
8　その他（　　）

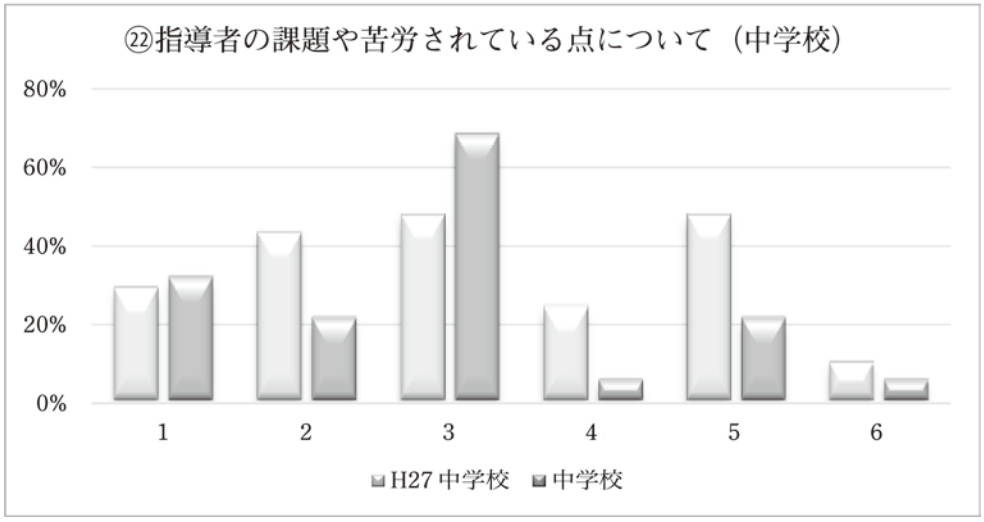


道徳科の全面実施にともない、「授業が進めやすくなった」「忌避しがちな風潮がなくなってきた」など、様々な面で効果が実感されてきていることがうかがえます。

㉒　「道徳科」の指導で、指導者の課題や苦労されている点はどんなことですか。当てはまるものをすべて選んでください。

1　授業の進め方がわからない。
2　よい教材が見つからない。
3　目の前の児童生徒にあった教材が少ない。
4　授業をしても児童生徒の変容が見られない。
5　研修の機会が少ない。
6　その他（　　）





＜その他の内容＞

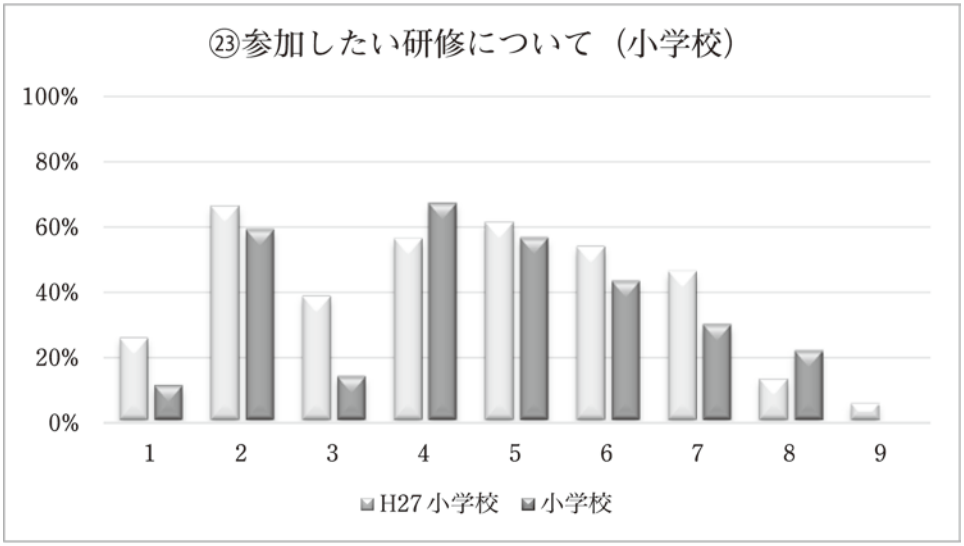
【小学校】
- 複式学級・単式学級が年度毎に変わるため、実践の蓄積が少ない。
- 全校道徳を実施した場合、教材文をどの学年に合わせて選ぶか、学年に合わせて発問を選ぶことが難しい。
- 教師によって評価の理解があいまいで、見取りの差がある。
- 授業での反応や活動・学びが実生活に結びついていない。
- 明確な指導観に基づく授業の創造。その上で、自分との関わりで考えられる授業（考え、議論する道徳授業）を構想し、実践すること。
- 導入や終末を工夫するために、準備時間がかかってしまっている。

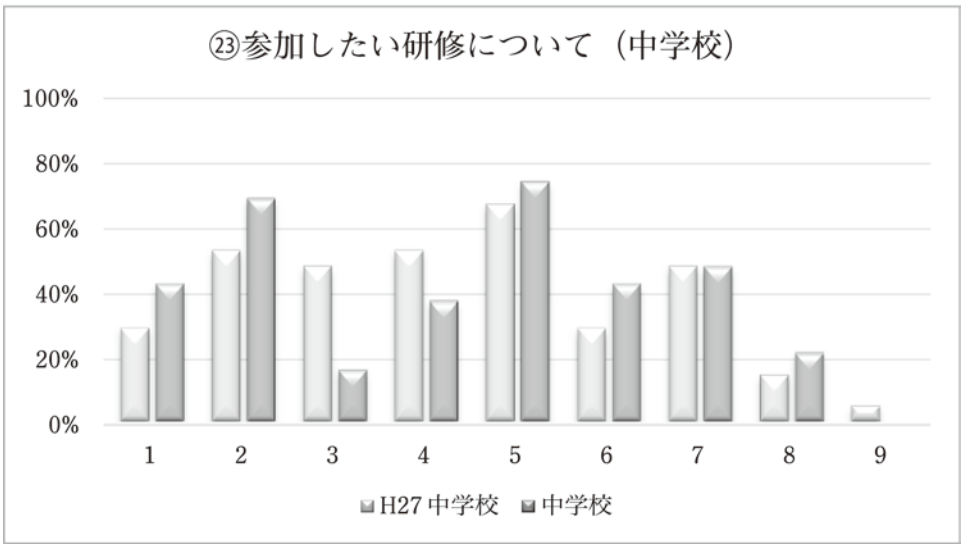
【中学校】
- 効果的な発問。

「道徳科」の指導で課題と捉えられている項目は多岐にわたり、それぞれの学校で違うことがうかがえます。小学校では、「目の前の児童生徒にあった教材が少ない」と感じる割合が減ってきたが、中学校では割合が増えてきたことがうかがえます。

㉓　**どのような研修（講座）があれば参加したい、または自校の先生に参加を呼びかけたいですか。当てはまるものをすべて選んでください。**

1　道徳教育にかかわる理論、進め方を学ぶ研修
2　効果的な「道徳科」の進め方について学ぶ研修
3　年間指導計画や別葉の作成、検討を行う研修
4　先進的な実践など、他校の実践に学ぶ研修
5　「道徳科」の評価に関わる研修
6　「道徳科」の授業を参観し、協議する研修
7　「検定教科書」の活用について学ぶ研修
8　異校種の「道徳科」の授業を参観し、協議する研修
9　その他（　　）

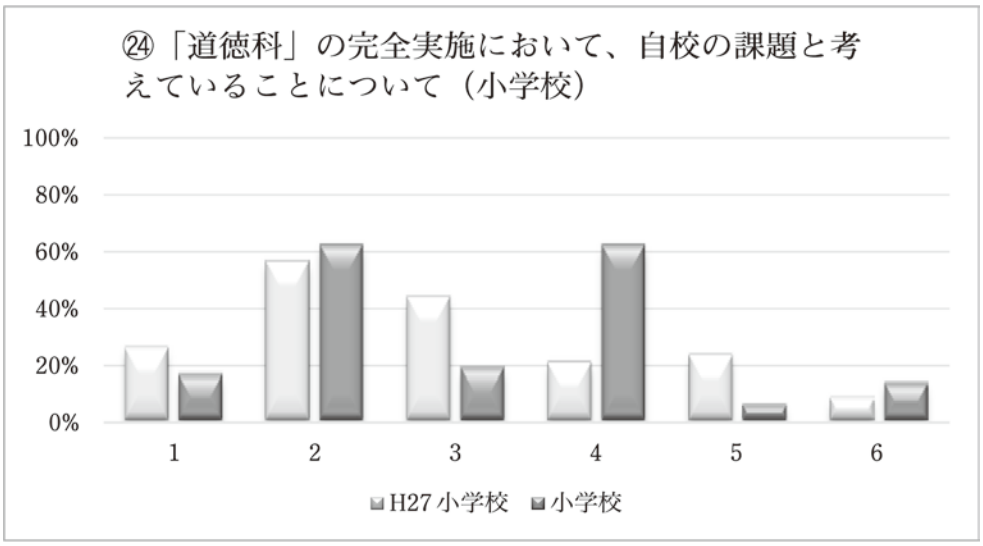


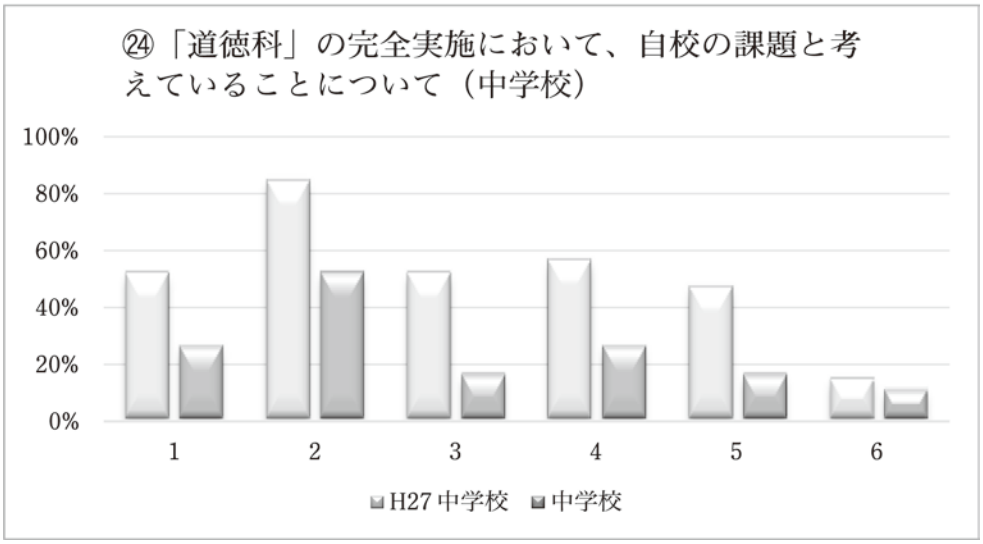


参加したい研修については、多岐にわたりどのような研修でも参加したいと感じていることがうかがえます。特に小学校では「効果的な進め方について学ぶ研修」「先進的な実践など、他校の実践に学ぶ研修」などの授業に関わる研修が多く、中学校ではさらに「評価に関わる研修」が多い傾向が見られます。

㉔ 「道徳科」の完全実施において、自校の課題と考えていることをすべて選んでください。

1　年間指導計画の作成、別葉の作成について共通理解が図りにくい。
2　道徳教育に関する研修の時間がとりにくい。
3　学力向上の取組が忙しくて、後回しになっている。
4　道徳教育、「道徳科」に対しての職員間の意識の差が大きい。
5　年間３５時間の「道徳科」が充実したものになっていない。
6　その他（　　）





＜その他の内容＞

【小学校】
・授業の質の向上。
・複式学級・単式学級が年度毎に変わるため、実践の蓄積が少ない。
・全校道徳を取り入れた年間指導計画の作成の難しさ。
・年間指導計画、別葉の作成を時間と労力をできるだけ少なく効率的に行うこと。
　評価について、学校として統一した書き方を決めていないこと。

・授業の進め方がパターン化している。
・道徳科だけでなく学校の道徳教育をどう評価していくかを考えている。

【中学校】

・指導要領解説を読み、どのような授業にするべきかということを考えたうえでの授業改善の日常化。
・道徳科がめざすもの、評価の在り方について保護者の理解がまだ充分に深められていない。

小学校では、「研修の時間がとりにくい」「職員間の意識の差が大きい」などの課題が多いことがうかがえます。しかし、道徳科への移行に伴い、「年間指導計画の作成、別葉の作成について共通理解」「年間３５時間の『道徳科』が充実したものになっていない」などの課題が減ってきたことがうかがえます。特に中学校では課題と考えられる事項がどの項目でも減ってきていることがうかがえます。

㉕　道徳教育に関する研究についてのご意見があればお書きください。（自由記述）

【小学校】

・「考え、議論する道徳」の授業づくりについて理解を深めたい。道徳ノートの活用について学びたい。
・教科化されてから、教科書を使うようになり、学年に応じた指導ができるようなった。また、板書や発問などある程度の流れがあるのでさらに児童の実態に応じて教材研究をすることで、以前よりも充実したものになっていると感じます。
・北海道における喫緊の教育課題は、学力向上、体力向上である。学校における教育資源には限りがあるので、効果的に活用するためには選択と集中が必要となる。つまり、道徳教育を深く研修するのは難しい実状がある。

【中学校】

・効果的・効率的な道徳の授業の在り方が切実な課題である。

道徳科への移行で、「考え、議論する道徳」の推進が示されたことにより意識して進められてきているようです。また、検定教科書が使用されるようになり、課題と考えられていた進め方や評価の仕方などが充実したものになってきているようです。しかし、学力や体力の向上も重視されている中で重点的に道徳科を扱うことが難しいと感じられている学校もあることがうかがえます。

本調査を通して見えてきたこと

今回のアンケート調査の結果から、「教育課程の編成について」「道徳科の教科書・教材の取り扱いについて」「道徳科の評価について」の３点について課題が明らかとなってきました。

１　教育課程の編成について

Q 道徳科の全面実施において、教育課程はどのように編成すればよいですか？

アンケートの結果、回答をいただいた多くの学校で、道徳科の全面実施における教育課程の編成が平成２７年度に比べて進められていることがわかりました。さらに編成を進めて、教育課程について、指導計画の作成や指導体制の確立など、充実させていく必要があります。

（１）道徳教育の全体計画

> 道徳教育は，学校や児童の実態などを踏まえ設定した目標を達成するために，道徳科はもとより，各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて行うことを基本として，あらゆる教育活動を通じて，適切に行われなくてはならない。その中で，道徳科は，各活動における道徳教育の要として，それらを補ったり，深めたり，相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たす。いわば，扇の要のように道徳教育の要所を押さえて中心で留めるような役割をもつと言える。
> （小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　第２章　第１節　１道徳教育と道徳科）

これまでの道徳教育の全体計画における道徳の時間の位置付けから、どのように変わったかを明らかにしていく必要があります。各学年、各学級でそれぞれ重点目標があり年度ごとに見直していく部分もあるかと思いますが、道徳科において重視されている、「自己肯定感の育成」「自他の尊重の意識や他者への思いやり」「集団における役割の自覚」などについて考慮してみてはいかがでしょうか。

> 全体計画は，特に次の諸点において重要な意義をもつ。
> ㈠　人格の形成及び国家，社会の形成者として必要な資質の育成を図る場として学校の特色や実態及び課題に即した道徳教育が展開できる
> 　各学校においては，様々な教育の営みが人格の形成や国家，社会の形成者として必要な資質の育成につながっていることを意識し，特色があり，課題を押さえた道徳教育の充実を図ることができる。
> ㈡　学校における道徳教育の重点目標を明確にして推進することができる
> 　学校としての重点目標を明確にし，それを全教師が共有することにより，学校の教育活動全体で行う道徳教育に方向性をもたせることができる。
> ㈢　道徳教育の要としての道徳科の位置付けや役割が明確になる

道徳科で進めるべきことを押さえるとともに，教育活動相互の関連を図ることができる。また，全体計画は，道徳科の年間指導計画を作成するよりどころにもなる。

(エ) 全教師による一貫性のある道徳教育が組織的に展開できる

全教師が全体計画の作成に参加し，その活用を図ることを通して，道徳教育の方針やそれぞれの役割についての理解が深まり，組織的で一貫した道徳教育の展開が可能となる。

(オ) 家庭や地域社会との連携を深め，保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を可能にする

全体計画を公表し，家庭や地域社会の理解を得ることにより，家庭や地域社会と連携し，その協力を得ながら道徳教育の充実を図ることができる。

（小学校学習指導要領解説総則編　第６節 道徳教育推進上の配慮事項　(2) 道徳教育の全体計画）

（2）全体計画別葉

全体計画別葉については、学習指導要領解説に示されたような、「補ったり、深めたり、統合させたり」するために道徳科と他の教育活動との関連を明らかにして適正に内容項目を配列するための指針となるものです。

全体計画と同様に、内容項目の配列を見直すことはもちろん、全体計画で示した重点項目に沿って、指導時期や回数を工夫していくことが大切です。

（3）年間指導計画

学習指導要領解説には、「道徳科の指導の時期、主題名、ねらい及び教材を一覧にした配列表だけでは年間指導計画としては機能しにくい。」との記載があります。年間指導計画で以下のような記載がありますので、自校の年間指導計画と照らし合わせて項目を追加していく必要があります。

(ア) 指導の時期

学年ごとの実施予定の時期を記載する。

(イ) 主題名

ねらいと教材で構成した主題を，授業の内容が概観できるように端的に表したものを記述する。

(ウ) ねらい

道徳科の内容項目を基に，ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表したものを記述する。

(エ) 教材

教科用図書やその他，授業において用いる副読本等の中から，指導で用いる教材の題名を記述する。なお，その出典等を併記する。

(オ) 主題構成の理由

ねらいを達成するために教材を選定した理由を簡潔に示す。

(カ) 学習指導過程と指導の方法

ねらいを踏まえて，教材をどのように活用し，どのような学習指導過程や指導方法

で学習を進めるのかについて簡潔に示す。

(キ) 他の教育活動等における道徳教育との関連

他の教育活動において授業で取り上げる道徳的価値に関わってどのような指導が行われるのか，日常の学級経営においてどのような配慮がなされるのかなどを示す。

(ク) その他

例えば，校長や教頭などの参加，①他の教師の協力的な指導の計画，保護者や地域の人々の参加・協力の計画，②複数の時間取り上げる内容項目の場合は各時間の相互の指導の関連などの構想，③年間指導計画の改善に関わる事項を記述する備考欄などを示すことが考えられる。

（小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　第４章　第１節　２（２）年間指導計画の内容）

①…道徳科の指導において、ねらいの達成のためにより効果的と判断される場合において、学級担任以外の指導や外部講師の参加が計画されている学校もありますので、その記載ができる欄も年間指導計画では必要です。

②…学校や学年の重点項目に応じて複数の時間取り上げることが必要な内容項目もあるので、記載する欄が必要です。

③…備考欄を設けることで次年度への配慮事項を記載していくことができます。数年間、備考欄に書き加えられたものを参考にして、指導の改善に生かしていくことも必要でしょう。

Q 学級における指導計画とはどのようなものでしょうか？

平成２０年６月に示された学習指導要領解説では、学級における指導計画について「全体計画を児童や学級の実態に応じて具体化するものであり、学級において教師や児童の個性を生かした道徳教育を展開する指針」と位置付け、意義や内容が書かれています。

内容としては、以下のように示してあります。

1　基本的把握事項

ア　学級における児童の道徳性の実態

イ　学級における児童の願い，保護者の願い，教師の願い

ウ　学級における道徳教育の基本方針

2　具体的計画事項

ア　教師と児童の信頼関係及び児童相互の望ましい人間関係を築く方策

イ　各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育の概要

ウ　学級生活における豊かな体験活動の概要

エ　学級における道徳教育に関する環境の整備の方針

オ　基本的な生活習慣に関する指導の方針

カ　他の学級・学年との連携にかかわる内容と方法

キ　家庭・地域社会等との連携及び授業公開等にかかわる内容と方法

ク　その他（例えば重点的な指導に関する具体的計画など）

道徳科の全面実施に伴い、今回の学習指導要領解説から、「学級における指導計画」の記載はなくなっていることから、「学級における指導計画」は、必ずしも作成しなければならないものではありません。しかし、新学習指導要領解説総則編には、「日常的な学級経営を充実させるための具体的な計画等を記述する。」と示されていますので、学校や児童生徒の実態に応じて作成することが望ましいと言えます。また、全体計画を具現化するもの、保護者や地域に示す指針として作成することも考えられます。

(イ) 具体的計画事項

基本的把握事項を踏まえ，各学校が全体計画に示すことが望まれる事項として，次の諸点を挙げることができる。

・学校の教育目標，道徳教育の重点目標，各学年の重点目標
・道徳科の指導の方針
・年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の指導の工夫，校長や教頭等の参加，他の教師との協力的な指導
・各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育の指導の方針，内容及び時期

重点内容項目との関連や各教科等の指導計画を作成する際の道徳教育の観点を記述する。また，各教科等の方針に基づいて進める道徳性の育成に関わる指導の内容及び時期を整理して示す。

・特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針，内容及び時期
　学校や地域社会の特色を生かした取組や集団宿泊活動，ボランティア活動，自然体験活動などの体験活動や実践活動における道徳性を養うための方針を示す。
　また，その内容及び時期等を整理して示すことも考えられる。
・学級，学校の人間関係，環境の整備や生活全般における指導の方針
日常的な学級経営を充実させるための具体的な計画等を記述する。
・家庭，地域社会，他の学校や関係機関との連携の方法
　協力体制や道徳科の授業公開，広報活動，保護者や地域の人々の参加や協力の内容及び時期，具体的な計画等を記述する。
・道徳教育の推進体制
　道徳教育推進教師の位置付けも含めた全教師による推進体制を示す。
・その他
　例えば，次年度の計画に生かすための評価の記入欄，研修計画や重点的指導に関する添付資料等を記述する。

（小学校学習指導要領解説　総則編第６節　道徳教育推進上の配慮事項　(2) 道徳教育の全体計画）

Q 道徳科の授業は、学級担任だけが行うのがよいのでしょうか？

アンケート結果から、小学校では学級担任が道徳科の授業を行うことがほとんどであることがうかがえます。学級の児童との関わりが多い担任が授業を進める方が効果的であると考えられますが、学習指導要領解説では、「全てを学級担任任せにするのではなく」と示されています。もちろん、特に効果的と考えられる場合に限ってのことですが、「校長や教頭などの参加」「他の教職員とのティーム・ティーチングなどの協力的な指導」「管理職や他の教員の得意分野を生かした指導」などが示されています。

中学校では、「学級副担任」が指導にあたっていると回答した学校が多くありました。同じ教材で繰り返し指導を行うことができる、学年の生徒の実態を把握できるなどの利点が考えられます。

学級担任が道徳科の授業を行うことを基本として、指導体制を充実させるために学校の教職員が協力して指導に当たることができるように年間指導計画を少しずつ改訂していくことも考えられます。

> 道徳科の指導体制を充実するための方策としては，まず，全てを学級担任任せにするのではなく，特に効果的と考えられる場合は，道徳科における実際の指導において他の教師などの協力を得ることが考えられる。校長や教頭などの参加による指導，他の教職員とのティーム・ティーチングなどの協力的な指導，校長をはじめとする管理職や他の教員が自分の得意分野を生かした指導を行うことなど，学校の教職員が協力して指導に当たることができるような年間指導計画を工夫することなどを，学校としての方針の下に道徳教育推進教師が中心となって進めることが大切である。
>
> （小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　第３節 指導の配慮事項　　１ 道徳教育推進教師を中心とした指導体制）

２　道徳科の教科書・教材の取り扱いについて

Q 道徳科の授業は、教科書だけで進めればよいのでしょうか？

道徳科の全面実施に伴い、教科用図書が取り入れられました。各教科書会社では、学習指導要領に沿って教材を配列し、すべての内容項目が扱われています。ただ、全３５時間分の教材において、重点的に扱いたい内容項目が複数時間設定されていなかったり、児童生徒の実態に合わない教材であったりすることも考えられます。

主たる教材として教科用図書が使用されることと思われますが、学習指導要領解説では、「柔軟な発想をもち､教材を広く求める姿勢が大切である」として具体例もいくつか示されています。

また、「多様な教材を活用した創意工夫ある指導」として「各地域に根ざした地域教材など」を併せて活用することも示されています。さらには、「地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい」とも書かれています。北海道教育委員会からは、北海道版道徳教材「きた　ものがたり～北海道の先人の生き方に学ぶ～」､北海道版道徳教材「はあと･ふる」など地域素材として、北海道に関わる教材が紹介されています。中には、身近な地域素材として扱うことができるものも掲載されています。

教科用図書の使用を基本として、児童生徒の実態に応じた、より効果的な教材の開発と指導ができるよう年間指導計画を見直してみてはいかがでしょうか。

(1)　道徳科に生かす多様な教材の開発

教材の開発に当たっては，日常から多様なメディアや書籍，身近な出来事等に強い関心をもつとともに，柔軟な発想をもち，教材を広く求める姿勢が大切である。

具体的には，生命の尊厳，自然，伝統と文化，先人の伝記，スポーツ，情報化への対応等の現代的な課題などを題材として，児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり，感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用が求められる。

(2)　多様な教材を活用した創意工夫ある指導

道徳科においても，主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが，道徳教育の特性に鑑みれば，各地域に根ざした地域教材など，多様な教材を併せて活用することが重要となる。様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は，児童にとって特に身近なものに感じられ，教材に親しみながら，ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができるので，地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい。

これらのほかにも，例えば，古典，随想，民話，詩歌などの読み物，映像ソフト，映像メディアなどの情報通信ネットワークを利用した教材，実話，写真，劇，漫画，紙芝居などの多彩な形式の教材など，多様なものが考えられる。

（小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　第４節 道徳科の教材に求められる内容の観点
１ 教材の開発と活用の創意工夫）

Q 道徳科の教材は、変更してもいいのでしょうか？

教科用図書の活用にとどまらず、地域教材や独自の教材の使用が考えられますが、自校の年間指導計画に示された教材の変更について学習指導要領解説では「指導者の恣意による不用意な変更や修正が行われるべきではない」と書かれています。変更や修正を行うには、十分に検討が必要で校長の了解を得ることが必要とされています。広く教材を求める姿勢は大切ですが、安易に変更してもいいというわけではありません。

しかし、年間指導計画の内容に沿った中で、弾力的な取扱いについては、いくつか示されています。

ア　時期、時数の変更

児童生徒の成長や学校生活での体験などで指導したい時期が変わることは考えられます。また、重点的に扱いたい内容については時数を増やすなどの変更も考えられます。

イ　ねらいの変更

年間指導計画において、扱うべき内容項目はすべて扱う必要がありますが、その中でねらいについては、その時の児童生徒の実態に合わせて変更することも考えられます。

ウ　教材の変更

教材の変更は「そのことによって一層効果が期待できるという判断」されたもので道徳教育推進教師などと協議の上、校長の了解を得る必要があります。このように慎重に進める必要がありますが、学校や学年の道徳教育の目標達成に向けた教材開発は大切だと考えられます。

エ　学習指導過程、指導方法の変更

「児童や学級の実態などに応じて適切な方法を開発する姿勢が大切である」と書かれています。年間指導計画に示されたものを基本として、指導方法を変更する場合には学校全体の共通理解のもとに行われる必要があります。

---

(7)　計画の弾力的な取扱いについて配慮する

年間指導計画は，学校の教育計画として意図的，計画的に作成されたものであり，指導者の恣意による不用意な変更や修正が行われるべきではない。変更や修正を行う場合は，児童の道徳性を養うという観点から考えて，より大きな効果を期待できるという判断を前提として，学年などによる検討を経て校長の了解を得ることが必要である。

なお，年間指導計画の弾力的な取扱いについては，次のような場合が考えられる。

ア　児童の実態などに即して，指導の時期，時数を変更することが考えられる。しかし，指導者の恣意による変更や，あらかじめ年間指導計画の一部を空白にしておくことは，指導計画の在り方から考えて，避けなければならない。

イ　ねらいの変更

年間指導計画に予定されている主題のねらいを一部変更することが考えられる。ねらいの変更は，年間指導計画の全体構想の上に立ち，協議を経て行うことが大切である。

ウ　教材の変更

主題ごとに主に用いる教材は，ねらいを達成するために中心的な役割を担うものであり，安易に変更することは避けなければならない。変更する場合は，そのことによって一層効果が期待できるという判断を前提とし，少なくとも同一学年の他の教師や道徳教育推進教師と話し合った上で，校長の了解を得て変更することが望ましい。

エ 学習指導過程，指導方法の変更

学習指導過程や指導方法については，児童や学級の実態などに応じて適切な方法を開発する姿勢が大切である。しかし，基本的な学習指導過程についての共通理解は大切なことであり，変更する場合は，それらの工夫や成果を校内研修会などで発表するなど意見の交換を積極的に行うことが望まれる。

（小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　第１節 指導計画作成上の配慮事項　３ 年間指導計画作成上の創意工夫と留意点）

3　道徳科の評価について

Q 道徳科の授業では、どのように児童生徒の学習状況を見取っていけばよいのでしょうか？

道徳科の評価では、「児童が学習活動を通じて多面的･多角的な見方へ発展させていることや、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めていることを見取るための様々な工夫が必要」と示されています。1 時間単位で評価するのではなく、年間を通して様々な道徳的諸価値について考えていく中で培われていくものだと考えられます。

そこで、毎時間の学習状況の記録の蓄積が必要になってきます。記録の仕方についてはいろいろな方法が考えられます。

1. 観察法…児童生徒の学校生活の様子を観察することで評価する方法。
2. 面接法…児童生徒の直接会話，表情や態度、発言内容から評価する方法。
3. ノートや作文による方法…道徳ノートなどに記述された文章から評価する方法。
4. ポートフォリオ評価…道徳ノートや作文、役割演技等を収録した映像、プレゼンなどの成果物をもとに評価していく方法。
5. エピソード評価…児童生徒が道徳性を発達させていく過程で、発言や記述したものをエピソード（挿話）の形で累積していく方法。

光村図書　富岡 栄（麗澤大学大学院准教授）の記事より抜粋

発言が少なかったり、記述が苦手だったりする児童生徒の評価については、より注意深く見取り「教師や他の児童の発言に聞き入ったり、考えを深めようとしたりしている姿」など発言や記述から表出しない内面に着目することも大切です。

また、児童生徒の自己評価、他者評価についても、教師が行う評価活動ではありませんが、児童生徒自身の内面に気付くことにもなるため有効であるとともに、授業改善にも生かすことができます。さらに、他の教師との協力的な指導を行うことで、学級担任が普段とは違う角度から児童生徒を見取ることもできるので有効です。

このように、児童生徒の学習状況を見取るために、毎時間の学習状況の記録の蓄積が必要であり、学校全体で協力して様々な角度から見取れるようにしていくことが大切です。

（中略）児童の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したものや児童が道徳性を養っていく過程での児童自身のエピソードを累積したものを評価に活用すること，作文やレポート，スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程を通じて児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握することが考えられる。

なお，こうした評価に当たっては，記録物や実演自体を評価するのではなく，学習過程を通じていかに道徳的価値の理解を深めようとしていたか，自分との関わりで考えたかなどの成長の様子を見取るためのものであることに留意が必要である。

また，児童が行う自己評価や相互評価について，これら自体は児童の学習活動であり，教師が行う評価活動ではないが，児童が自身のよい点や可能性に気付くことを通じ，主体的に学ぶ意欲を高めることなど，学習の在り方を改善していくことに役立つものであり，

これらを効果的に活用し学習活動を深めていくことも重要である。発達の段階に応じて，年度当初に自らの課題や目標を捉えるための学習を行ったり，年度途中や年度末に自分自身を振り返る学習を工夫したりすることも考えられる。

さらに，指導のねらいに即して，校長や教頭などの参加，他の教師と協力的に授業を行うといった取組も効果的である。管理職をはじめ，複数の教師が一つの学級の授業を参観することが可能となり，学級担任は，普段の授業とは違う角度から児童の新たな一面を発見することができるなど，児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子をより多面的・多角的に把握することができるといった評価の改善の観点からも有効であると考えられる。

（小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　第５章　第２節 ２　道徳科における評価）

Q 道徳科の「大くくりなまとまりを踏まえた評価」「児童の成長を認める、個人内評価」とは、どのようなものでしょうか。

アンケート結果からは、通知表での評価の書き方について、道徳科への全面実施に合わせた、以下のような取組をしていると回答が得られました。

- 学習状況の様子と成長の様子を組み合わせて記述する。
- 前半・・・学習状況の様子　後半・・・成長の様子。
- 横断的、または縦断的視点での評価の推進。
- 道徳の学習状況とともに、１単位時間の学習で児童の発言・記述等において顕著な姿とそれに関わる考えや思いを記載する。
- 児童が道徳的価値を理解し、自分自身との関わりの中で深め、いかに成長したかという点を積極的に受け止めて励ます、記述式の個人内評価で行う。個々の内容項目ではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価とする。１時間１時間の授業を通しての変容をみとるのは難しいので、一定のまとまりの中で見取っていく。
- 道徳の授業の中で「どのような学習の姿が見られ」、それにより「どのような変容が見られたか」という文章構成を基本とし、一人一人について記述する。

道徳科の評価の具体的な在り方については、「大くくりなまとまりを踏まえた評価」と「児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価」と示されています。

「大くくりなまとまりを踏まえた評価」をするためには、毎時間の児童生徒の学習状況の評価が欠かせません。そのために、年間指導計画に示されたねらいや目標、評価項目を踏まえて明確な指導観をもって授業を行う必要があります。また、授業を行ったあとは記録の蓄積もしていくことが大切です。

道徳的諸価値の理解をもとに、「道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある」と言われています。一定の時間的なまとまりの中で評価することが「大くくりなまとまりを踏まえた評価」となります。

道徳的諸価値の理解をもとに、「道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間

的なまとまりの中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある」と言われています。一定の時間的なまとまりの中で評価することが「大くくりなまとまりを踏まえた評価」となります。

特に重視されているのは、「一面的な見方から多面的･多角的な見方へと発展しているか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」といった点です。内容項目の学習を進める中で、児童生徒の記録を蓄積していくことで、一人一人の学習状況を把握し、道徳的諸価値の理解をもとに変容した姿を見取っていくことが大切です。

また、具体的な例がいくつか示されています。学校や児童生徒の実態に応じて明確な意図をもって学習状況を見取っていくのか決めていく必要がありますが､まずは学習指導要領解説（第５章　第２節２道徳科における評価）に示された以下のような捉え方で評価を行っていくとよいでしょう。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか	○道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていること ○自分と違う立場や感じ方，考え方を理解しようとしていること ○複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていること
道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか	○読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え，自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目 ○現在の自分自身を振り返り，自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目 ○道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で，道徳的価値の理解を更に深めているか ○道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え，考えようとしているか

つまり「大くくりなまとまりを踏まえた評価」「児童の成長を認める、個人内評価」は、学習指導要領解説の例を参考にすると以下のように、様々な内容項目の学習の中で､①のような道徳科の学習状況（どのような姿が見られたか）を見取る中で､②のように以前より成長が見られた（目標に向けてどのような点で評価できるか）ことを記述していくことが大切です。

①道徳科の授業でどのような学習活動の様子が見られたか（学習状況の様子）	②道徳科の授業で道徳性に係るどのような成長の様子が見られたか（成長の様子）
○道徳的価値に関わる問題に対してどのように考えていたか。	⇒問題に対する判断や根拠を様々な視点から考えることができるようになった。
○自分と違う立場の考えを聞こうとしていたか。	⇒自分と違う立場の考えを取り入れて、考えを深められるようになった。
○道徳的価値の対立が生じる場面において自分なりの行動を考えているか。	⇒自分なりの行動を様々な立場や思いを踏まえて考えられるようになった。
○読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えることができたか。	⇒登場人物を自分に置き換えて、具体的にイメージして理解するようになった。
○道徳的な問題に対して、自己の取り得る行動を示すことができたか。	⇒問題に対して、自己の取り得る行動を友達と議論することで道徳的価値の理解を更に深められるようになった。
○道徳的価値の実現することの難しさに気付いているか。	⇒実現することの難しさに気付き、自分のこととして考えられるようになった。

以上のような学習状況の姿を「大くくりなまとまりを踏まえた」中で見取り、「横断的な視点」や「縦断的な視点」で評価していくことが必要と考えられます。

	①横断的な視点	②縦断的な視点
具体的な視点	個人の目標に向けた学習状況ごとに横並びにして、突出したところをよさと認める。	学習状況を時間的に縦に並べて、進歩の状況を認める。
Ⓐ多面的・多角的な見方へと発展した児童生徒	礼儀の大切さについて考える授業で、友達と意見交換をすることを通して、「自分が挨拶されるとうれしいように友達に挨拶するとうれしい」と自分の感じ方や考え方を広げていました。	多くの意見に触れ、自分の考えを深めるという目標に向けて日々学習を重ねる中で、友達と議論しながら、幅広い感じ方や考え方を認められるようになってきました。
Ⓑ自分自身との関わりで深めていた児童生徒	礼儀の大切さについて考える授業で、ワークシートに自分の考えを書くことを通して、「挨拶をすることの大切さはわかるけどやることは難しい」と道徳的価値を自分自身との関わりで考えていました。	自分の経験を振り返り、自己の生き方について考えを深めるという目標に向けて学習を重ねる中で、教材の世界に浸り、考えを深めながら、自分がその状況下においてどのような判断で行動するか考えられるようになってきました。

（令和元年度道徳教育推進教師研修資料より抜粋）

【道徳科の評価の例】

「たいせつないのち」の学習では、教材の中のハムスターと家で飼っている鳥の様子を重ねながら、命を大切にしたいという①思いを強くもつことができました。このように、他の児童の思いや考えにしっかりと耳を傾けながら、これまでのⒷ自分の生活を振り返り、学習のめあてについて②考えを深められるようになりました。	①横断的 Ⓑ縦断的 ②自分自身
学習の様子やワークシートの振り返りなどから、教材の主人公に自分の思いを重ねながら、Ⓐ新しい見方や考え方に気付く姿が②見られるようになりました。特に、「生活を見直す」の学習では、整理整頓すると、気持ちがよいだけでなく、次に使うときに物が見つけやすくなることや物が無くならないことに①気付くことができました。	Ⓐ多面多角 ②縦断的 ①横断的
「友達とは」の学習では、「簡単に手を貸したり、友人の言うことを全て受け入れたりすることが本当の友情ではない」と発表するなど、互いに高め合い成長できる関係をつくっていこうとする①意欲がみられました。このように、教材の主人公の思いや行動に対して、「Ⓑ自分だったらどうするだろう」と自分なりに②考えを深められるようになりました。	①横断的 Ⓑ自分自身 ②縦断的
少しずつ自分の立場に置き換えて考え、Ⓐ色々な見方や考え方があることを具体的にイメージして②理解するようになってきました。特に、「家族みんなで」の学習では、Ⓑ自分を振り返り、「自分のできることを家でもがんばりたい」とこれからの自分の生活に生かしていこうとする①意欲を高めていました。	Ⓐ多面多角 ②縦断的 Ⓑ自分自身 ①横断的

「働くってどういうこと？」の学習では、普段の係活動と重ねて、自分の考えや、やってみたいことをⒷ見つめ直すことで、「進んで働くこと」の大切さを深く①考えることができました。日々の学習で友人との交流を通して、常にⒷ「自分ならどうするか」という視点で物事を②捉えられるようになってきました。	Ⓑ自分自身 ①横断的 Ⓑ自分自身 ②縦断的
教材の登場人物とⒷ自分を重ねながら、どのように判断・行動することがよいのか、根拠を持って積極的に②討論するようになりました。特に、「分かり合うために」の学習では、ＳＮＳにはⒶ利便性があるが、誤解が生じる危険性もあることに気付き、これからは友人と顔を合わせた交流を大切にしていこうとする①意欲を高めていました。	Ⓑ自分自身 ②縦断的 Ⓐ多面多角 ①横断的
「命や自然のすばらしさ、生きる喜びを考える」学習では、主人公が残した言葉の意味を、これまでのⒷ自分の体験と重ね合わせながら、実感として①捉えようとしていました。教材に対して感動で終わるのではなく、これからの自分の生き方について考える一つの手がかりにしていこうとする姿が②見られるようになりました。	Ⓑ自分自身 ①横断的 ②縦断的
Ⓑ自分を振り返り、偏見や先入観にとらわれず正しいことを見つめようとする姿勢が②見られるようになりました。特に、「公正・公平・社会正義」の学習の感想には、「全部を正しく見ているわけじゃないから、勝手に思い込んで差別が生まれると思う。人の嫌がることをしていないか考えて行動したい」と相手を考える①気持ちが表れていました。	Ⓑ自分自身 ②縦断的 ①横断的
自分にも他人にもよりよい社会にするため、互いに助け合い励まし合うことについて書いた感想文には、Ⓐ他の生徒の発言に共感しながら①自分の考えを深めている様子が伝わり、②成長を感じさせられました。他の生徒の発言に聞き入り、理解しようとする姿が②見られるようになってきました。	Ⓐ多面多角 ①横断的 ②縦断的 ②縦断的
「社会の一員として自分を捉える」学習では、他の生徒の発言に聞き入り、理解しようとする姿が②見られるようになってきました。特に、自分にも他人にもよりよい社会にするため、互いに助け合い励まし合うことについて書いた感想文には、Ⓐ他の生徒の発言に共感しながら①自分の考えを深めている様子が伝わり、②成長を感じさせられました。	②縦断的 Ⓐ多面多角 ①横断的 ②縦断的
「生命や自然、崇高なものとの関わりを考える」学習では、人間には弱さも醜さもあるが、それに向き合う強さがあることに気付き、自己の弱さを克服したいという思いを①感想に述べていました。このように、授業を通して、Ⓑ自分自身を見つめ直すことで見えてきたことやⒶ他の生徒との交流で深めた考えを②大切にするようになりました。	①横断的 Ⓑ自分自身 Ⓐ多面多角 ②縦断的

このように、縦断的な視点や横断的な視点から「道徳的諸価値の理解を通して」成長が見られた様子を評価していくことが大切だと考えられます。

参考文献

・　小（中）学校学習指導要領　　（文部科学省　平成２９年３月公示）
・　特別の教科　道徳　評価について（京都市教育委員会　平成３０年３月）
・　道徳科の評価の改善・充実　　（令和元年度道徳教育推進教師研修資料）

令和元年度　所員一覧

役職名	氏　　名	所属学校	職　名
所　　長	土　井　嘉　啓	登別市立若草小学校	校　　長
副　所　長	立　花　和　実	伊達市立伊達中学校	校　　長
事務局長	髙　橋　賢　治	登別市立富岸小学校	主幹教諭
事務局次長	村　井　淳　一	伊達市立伊達中学校	主幹教諭
所　　員	本　所　章　宏	伊達市立伊達小学校	主幹教諭
所　　員	武　田　成　永	登別市立緑陽中学校	主幹教諭
所　　員	牛　島　夏　陽	伊達市立東小学校	教　　諭
所　　員	宮　崎　雄太朗	伊達市立光陵中学校	教　　諭
所　　員	石　井　芳　政	登別市立若草小学校	教　　諭
所　　員	藤　田　宣　夫	白老町立萩野小学校	教　　諭
事務職員	水　留　恵美子	胆振教育研究所	

あとがき

今年度は、Rugby World Cup 2019 日本大会が行われ、ラグビーの試合が連日テレビ放送される中で、日本代表が快進撃を続け決勝トーナメントに進む快挙を成し遂げました。流行語大賞には、日本代表が何度も口にした「ONE TEAM」が選ばれるほどの注目度となり、これまであまり見たことがなかったという人たちがその魅力に触れ、この競技が話題となった場面が多かったように思います。

さて、ラグビーには様々な団体がありますが、今回ワールドカップを行った World Rugby Union には、「ラグビー憲章」というものがあります。その中で５つの言葉が示されています。この言葉も期間中多く目にすることがありました。

品位（INTEGRITY）
　品位とはゲームの構造の核を成すものであり、誠実さとフェアプレーによって生み出される。
情熱（PASSION）
　ラグビーに関わる人々は、ゲームに対する情熱的な熱意を持っている。ラグビーは、興奮を呼び、愛着を誘い、グローバルなラグビーファミリーへの帰属意識を生む。
結束（SOLIDARITY）
　ラグビーは、生涯続く友情、絆、チームワーク、そして、文化的、地理的、政治的、宗教的な相違を超えた忠誠心へとつながる一体的な精神をもたらす。
規律（DISCIPLINE）
　規律とはフィールドの内外においてゲームに不可欠なものであり、競技規則、競技に関する規定、そして、ラグビーのコアバリューを順守することによって表現される。
尊重（RESPECT）
　チームメイト、相手、マッチオフィシャル、そして、ゲームに参加する人を尊重することは、最も重要である。

これら５つをラグビー選手は、常に意識しているそうです。確かに連日の熱戦やフィールド外で、その一端が感じられ心が温かくなるエピソードがいくつも報道されていました。

どれも、道徳科でいうところの、「内容項目」にあてはまるものです。どのスポーツにおいてもこのような言葉があると思われますが、一流の選手にはそのスポーツに対する技術はもちろんですが、「心」も大事だということがよくわかります。経験体験したことと「心」とがつながることでさらに育成される、まさに「深い学び」となっていくと思われます。この体験と道徳のつながりを意識していくものがラグビーであり、学校では全体計画別葉となると考えられます。深い学びを通して、心が育つ「道徳科」になっていけばと思います。

結びになりますが、胆振管内の教職員の皆様には、日頃の教育実践でご多用のところ、アンケート調査にご協力をいただき、心からお礼申し上げます。本研究紀要が、胆振管内の各学校で活用され、各学校が「ONE TEAM」となり、子どもたちの「心の教育」に生かされることを心から願っております。

胆振教育研究所　所員　牛　島　夏　陽

令和元年度　研究紀要　２２８号

調査課題研究

「特別の教科 道徳」全面実施に関するアンケート調査

～アンケート結果の報告と考察～

発行年月日　令和２年２月２６日
発　　行　胆振教育研究所
代 表 者　所長　土井嘉啓
印　　刷　㈲村上印刷